

第2回平成28年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会会議録

平成27年7月1日（水）午後2時00分～

委員長

皆様、こんにちは。本日は、お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

会議の開会に先立ちまして、傍聴の皆様にお願いがございます。お手元の傍聴券の裏をごらんください。「藤沢市教科用図書採択審議委員会の傍聴要領」に従い、傍聴くださるようお願いいたします。

なお、この会議は公開であるとともに、審議の内容につきましては、会議録作成の都合上、録音させていただきます。

なお、本日は、審議委員の三島委員が所用のために欠席しておりますが、藤沢市教科用図書採択審議委員会規則第5条第2項の規定にあります委員の半数以上の出席という要件を現在満たしておりますので、予定どおり審議委員会を開催させていただきます。

それでは、ただいまより第2回平成28年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を開催いたします。

今回ご審議いただく内容は、次第にもありますように、議題1「平成28年度使用中学校用教科用図書について」です。

それでは次に、事務局より本日の資料につきまして説明をさせます。事務局、よろしく願いいたします。

事務局

それでは、まず初めに、第1回の審議委員会が終了した後、本日までの間に送付し、本日、お持ちいただきました資料についてご説明いたします。

初めに、県より報告されました「中学校、中等教育学校の前期課程用教科用図書調査研究の結果」です。これは、県の選定審議会のもとに置かれた調査委員会が調査研究した結果でありまして、選定審議会を経まして、県教育委員会から本市教育委

員会へと送付されましたものでございます。

次に、本審議委員会のもとに置かれました調査員によって作成されました「中学校用『調査資料』」です。これは、県の通知及び本審議委員会の方針を受けまして、学校教育に関し、十分な経験と知識を有する者のうちから、本市教育委員会教育長が調査員として各種目3名から5名を任命し、調査研究した結果をまとめたものでございます。なお、今回、調査研究に携わりました調査員の氏名等につきましては、調査資料の最終ページに記載してございます。

続きまして、本審議委員会までの間にござんいただいた資料として、2点ございます。1点目は、「平成28年度使用教科用図書調査書」です。これは、各中学校長が自校の教師に調査研究させたもので、各中学校長の責任のもと、県の調査研究の観点に沿って調査研究したものを簿冊としたものです。

2点目は、「平成28年度使用教科用図書意見書」です。これは、市民及び保護者向けに各中学校及び藤沢郵便局において教科書見本展示会を開催した際にいただいた意見、感想でございます。なお、サイドテーブルには、平成28年度、藤沢市で使用が予定される中学校用教科書見本が展示してあります。

以上で資料の説明を終わります。

委員長 ありがとうございます。

それでは、説明いただきました資料等について何かご質問はありますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 では、質問がないようですので、これから議事に入ります。

本日の次第をごらんください。まず初めに、藤沢市審議会等の会議の公開に関する要綱に基づきまして、会議録署名委員を

指名いたします。

委員長の私のほかに、本橋委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

本橋委員 結構です。

委員長 では、本橋委員、よろしく願いいたします。

それでは、ただいまより議題1「平成28年度使用中学校用教科用図書について」審議してまいります。

今年度は、平成28年度使用中学校用教科用図書の採択がえの年に当たっております。調査員がまとめました調査資料及び各中学校の調査書のまとめ、また、県より出されました中学校用教科用図書調査研究の結果等をもとに、各種目ごとに審議を進めていきたいと思っております。

これから審議してまいりたいと思っておりますが、委員の皆さん、審議の進行について何かご意見がありますでしょうか。

岩本委員 各学校で調査研究をした折には、県の調査の観点に従い、9から10項目のかなり細かい観点で研究をしてまいりました。市のほうでまとめられた調査資料では、この9から10項目をもとに大きく3つの観点到整理されていますので、今回は、市の調査資料と同様に、大まとめの3観点を意識しながら、それぞれご発言をいただければいかがでしょうか。

委員長 ありがとうございます。今、市の調査資料同様、3つの観点到という意見がありましたので、私のほうから詳細を説明いたします。市の調査員による3つの観点到いたしまして、まず、編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容、教科・種目別の観点到、これが1つ目の観点到でございます。次に、構成・分量・装丁、表記・表現が2つ目の観点到でございます。最後に、

本市の生徒の実態や地域等の特性との関連、これが3つ目の観点となります。これら3つの観点のもとに進めてはどうかというご意見だったと思います。委員の皆様、いかがでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 それでは、今確認された3点を踏まえて、これから各委員からご意見をいただいきたいと思います。

では、国語から始めます。ご意見をお願いいたします。金箱委員、お願いいたします。

金箱委員 それでは、お話をさせていただきます。学習指導要領には、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において言語活動が述べられています。それは、確かな学力を確立するために、各教科等の学習の基本ともなる国語力を身につけ、他教科にも広げていくことであり、国語科の担う役割は少ないと考えます。そういった観点から、東京書籍、三省堂、光村図書出版について述べさせていただきます。

まず、東京書籍ですが、言葉を通して相互に理解を深めようとする教材、キャッチコピーを考える教材や、詩、意見文の書き方例が取り上げられるなど、各学年の発達段階、習熟度に応じて学習していかれる教材が多いと感じました。また、単元の初めに、読むことを主体的に学習するための「学びの扉」があり、生徒の興味・関心を深められると思います。

次に、三省堂ですが、言葉の力を身につける学習の流れを「学びの道しるべ」で示し、「学びをひろげよう」で他の教科や生活につなげるなど、工夫を感じました。共同的な学習の形態が取り上げられており、互いに尊重し、伝え合うための表現について、体験しながら生徒は国語の力をつけていかれるのではないかと思います。

最後に、光村図書出版ですが、「学習の見通しをもとう」で各教材の学習目標が示されたり、教材の終わりには「次へつなげよう」が示されたり、何を学習するのかが大変明確であると思いました。それをほかの教材や生活につなげられると感じます。生徒が学習の見通しを持って計画を立てたり、振り返ったりでき、主体的に国語力を養うことができるのではないかと思います。

委員長 ほかはいかがでしょうか。石曾根委員、お願いします。

石曾根委員 私は、三省堂と教育出版について発言します。

初めに、三省堂ですが、小学校から中学校の接続が考えられています。日常生活に配慮され、自然な流れで年間指導計画ができる教材配列となっていて、全ての領域の教材は、小学校とのつながりを踏まえ、基礎・基本に確実に取り組めるように、そして、新たな力を段階的に習得していくことができるように系統的に配列されています。そして、識別しにくい配色は避けていて、色の濃淡や罫線などが工夫されていて、使用しやすいように配慮されています。

次に、教育出版ですが、小学校国語で学んだことの振り返りと、中学校国語で学ぶことを学習の導入単元として設置し、小学校国語から中学校国語の無理のない接続が考えられています。さらに、第3学年では、高等学校「国語総合」でよく取り上げられる作者、筆者の作品を集めた「送り出し単元」を設定していて、高等学校との接続も意識されています。このように、各学年での内容に振り返りや無理のない接続が考えられています。全体を通しての統一感、読みやすさを意識したレイアウト、色遣いに配慮されていると思います。

委員長 井上委員、お願いします。

井上委員 私は、読書活動に注目してお話しします。

学習指導要領で示されているように、中学生が読書に親しみ、物の見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりするためには、教科書での図書教材の配置や冊数、また、読書活動の工夫が重要です。どの教科書でも読書に関するページが工夫されているんですけども、例えば、光村図書出版ですが、教材ごとに同じ作者や同一のテーマを持つ本を紹介する「広がる読書」というコーナーがあります。各学年に配置された読書コラムでは、映画監督、翻訳者、作家など著名人による読書や読書記録を勧めるメッセージがあります。興味を引くと思いました。また、「本の世界を広げよう」という読書案内ページでは数多くの書籍を紹介していますが、テーマやジャンル分けが工夫されていて、1年生では「友達」「いのち」「情報」、2年生では「人間の生き方」「環境」「戦争・平和」、3年生では「社会の仕組み」「科学」「哲学」「国際理解」「人権」「恋愛」「進路」「夢」というように、子どもの発達段階に応じた設定がされて、3年間で243冊の本が紹介されています。また、「私が選んだこの一冊」という読書紹介や、「二年一組お薦め三十五冊」という読書案内をつくる活動なども盛り込まれていて、大変興味深いと思いました。

次に、東京書籍ですが、多種多様な読書案内が配置されて、3年間で305冊の本が紹介されています。本の写真と、冒頭部分にあらすじが載っていて大変わかりやすく、読み比べたり、読み広げたりすることができる、そういう紹介の仕方をしているのがよいと思いました。また、「読書活動を楽しもう」というコーナーでは、「ビブリオバトル」と名づけて、自分のお勧めの本を紹介し合う活動のほか、本の広告カード、紹介ポスターなどをつくる活動も扱っています。

最後に、教育出版ですが、読書教材を2つの系列で扱ってい

ます。1つは、文豪の作家紹介を含めた近代文学の系列、もう1つは、情報活用や図書館活動を組み込んだ系列です。メディア教材では、異なるメディアによる報道の比較などの学習を通して、テキストの読み取りに加えて、それだけでなく多様なテキストを評価したり、情報を活用したりする、つまり新しい学力や学習活動への対応を図っていると思われました。3年間で345冊の図書を紹介していますが、各学年の巻末の読書案内では、その学年に応じたテーマに基づいた本の写真と概要を紹介したり、文学作品にゆかりのある風景を都道府県別に紹介したりしていて、興味を引き、よく工夫されていると思われました。

委員長 では、若林委員、お願いします。

若林委員 私は、構成・分量・装丁、表記・表現の観点から申し上げたいと思います。出版社は、東京書籍、三省堂、光村図書出版について述べます。

各者ともに見やすい、落ちついた色調が使われていると思います。生徒に読みやすくつくられているのではないかと思います。また、写真や図版、図表を見てみると、東京書籍は、わかりやすい写真や図版が豊富に使われています。また、三省堂は、全体が落ちついた色遣いで、きれいな写真が使われています。光村図書出版は、効果的な色遣い、図表が充実しているかなと思います。

次に、教育現場では昨今、ユニバーサルデザインに注目、配慮されるようになっております。そういう視点から見ますと、わかりやすさという点では、三省堂、光村図書出版がこのわかりやすさに配慮した編集になっているかと思います。東京書籍は、分量、レイアウトが適切で読みやすいと思います。

また、表現の特徴としてなんですけれども、東京書籍については、イラストで生徒のキャラクターが配されています。これ

は、楽しく読み進められるように工夫されているのではないかと思います。また、三省堂と光村図書出版については、巻末の資料編がとても使いやすく構成されていると思います。

委員長 では、吉田委員、お願いします。

吉田委員 先ほど井上委員から話があったとおり、読書教材については内容が大変幅広く、生徒の興味を引く内容になっていますが、読むことの領域で取り上げられている学習材もそれぞれの教科書で工夫があり、特色も感じられました。内容的に、学校教育ふじさわビジョンの「自己の知」「状況の知」「かかわりの知」に関連して学べるものが数多くあるなど感じています。

学校図書では、単元の構成がどの学年も、「絆」「生命」「群像」「伝統」「世界」となっている点が特徴的でした。例えば、「絆」では、1年生で「家族の中」で、2年生で「仲間とともに」、3年生では「社会に向けて」と、学年ごとに関連したテーマで学習材が並び、3学年を通して、国語の力を身につけながら人の生き方などについて見方や考え方も系統的に深めていけるつくりになっているのが印象的でした。

東京書籍では、各学年の扉に歌や句に詠まれた四季に関する言葉が写真入りで取り上げられているところや、古典の導入に、古典作品の中で猫が登場するいろいろな場面を取り上げて現代とのつながりを感じさせたり、たくさんの写真、資料があったりするところに伝統的な言語文化に対する興味・関心を高める工夫があると感じました。また、言葉とメディアについて3年間取り上げられていて、情報化の社会においてメディアリテラシーを学ぶことの大切さが伝わります。特に3年生で扱われる「いつものように新聞が届いた—メディアと東日本大震災」の内容は大変印象的でした。

光村図書でも、3学年を通して情報活用力を身につける学習

材を読むこと以外の領域とも関連させて取り入れていて、情報モラルや情報発信について考えるよい機会となっています。また、3学年ともに、四季ごとに「季節のしおり」のページがあるところや、古典の導入では、1年生は「いろは歌」、2年生は「平家物語」、3年生は「古今和歌集仮名序」の音読から入るところが、伝統的な言語文化への関心を高め、古典に対する親しみや興味を持たせることにつながって、大変いいことだと思いました。

委員長 ほかはいかがでしょうか。

国語科に関しては意見が出尽くしたようですので、書写に移りたいと思います。書写に関してご意見をお願いします。泉委員、お願いします。

泉委員 私は、編修の趣旨と工夫の観点で、小学校の学習とのつながりや、中学校3年間の学習の流れについてお話しさせていただきたいと思います。

初めに、三省堂ですが、文字の整え方や筆順といった基礎・基本の定着に力を注いでいると感じました。それは、小学校の書写の学習の復習でもあり、また、これから学ぶ中学校の書写における基礎・基本でもあるわけです。教科書の巻末には、楷書、行書一覧表がありますが、小学校で学習した漢字と中学校で学習する漢字とが分かれており、小学校から入学した子どもたちにはわかりやすい工夫となっています。また、教材の冒頭に、「考えよう・話し合おう」というステップを設け、受け身で教わって練習するのではなくて、学習する意味を生徒に気づかせ、主体的な学習に導く構成となっています。編修趣意書では、この点につきまして「考える書写」と記されています。

次に、光村図書出版について触れたいと思います。こちらは、教科書の初めのほうに基礎編を配置しています。小学校の学習

の中から、筆遣いや字の形の整え方、文字の大きさと配列などを毛筆、硬筆、それぞれ見開き2ページずつにコンパクトにまとめたものです。筆圧の大きさを数字であらわしたり、漢字の部分同士の位置や大きさの関係を色分けして印刷したりと、誰が見ても大変わかりやすい工夫がされています。また、楷書の次に行書を学び、次に楷書と行書の使い分けを考え、そして、目的に応じて文字を効果的に使うという流れになっているのですけれども、最後の資料編では文字の活用の例がとても豊富に示されています。情報を集めて整理し、発信する方法が目的別に詳しく例示されています。ですから、生徒たちがこの書写の教科書を片手に、ほかの教科や委員会活動、学校行事などへ活用する姿が目に見えます。

委員長 ほかはいかがでしょうか。吉田委員。

吉田委員 どの教科書も生徒たちが主体的に学習に取り組むことができるような工夫が見られました。例えば、光村図書では、1つの課題で見開きの右ページの最初に目標が、左ページの最後に「学習を振り返る」という欄があって、自己評価を丸、三角で記入でき、みずから学習内容を確認できる工夫があります。途中で「学習の窓」とか学びのポイントがあって、大切なことを確認できるようになっています。初めて行書に入るところでは特に丁寧に、学びの順番を1、2、3と示しているところも、生徒たちにとってはわかりやすく、よいと思いました。

教育出版でも同様に、目標の提示と自己評価のチェックのできる「振り返ろう」という欄がありました。学びの過程としては、「考えよう」という項目で、手本を見て、筆遣いなどの特徴を自分たちで発見し、実際に毛筆練習をした後、「生かそう」という項目で硬筆に結びつけていくという学びの型があって、生徒たちが学習に見通しを持って取り組みやすいと思いまし

た。行書の導入についても丁寧に扱われているのが印象的でした。

三省堂では、先ほど泉委員がおっしゃったとおり、学びを深めるために、「考えよう・話し合おう」の課題が設定され、課題への取り組みについて目標をみんなで共有できるようなテーマの提示があるところが私もよいと思いました。「書いて確かめよう」というところで自分の学びを振り返ることができるのも生徒たちの主体的な学びにとってはよいことだと思いました。

委員長 ほかはいかがでしょうか。金箱委員、お願いします。

金箱委員 泉委員、吉田委員と重複するところもあるかと思いますが、学習指導要領におきましては、文字文化に親しみ、社会生活や学習活動に役立つような内容や指導が求められています。また、中学校では小学校から身につけてきた書写の能力を総合的に発揮させるとも示されております。私は何より、実生活の場面で文字を手書きするということの意義に気づかせることが大事なのではないかと考えています。その点から、東京書籍、教育出版、光村図書出版について述べさせていただきたいと思います。

初めに、東京書籍ですが、毛筆につきましては、運筆が朱墨の濃淡、それからリズムで示され、筆の流れや筆圧などがわかりやすいと思います。硬筆の教材については、横書きの書き方や要点が示されて、書き込みながら生徒が主体的に学習できるよう工夫されていると感じます。また、毛筆、硬筆の両方で、年賀状の書き方、また、本校でも行っておりますが、職場体験の体験先への依頼状や礼状の書き方が取り上げられています。なかなか手書きで手紙を書かなくなっている現状では参考になり、生徒が興味・関心を持ち、文字文化に親しみながら実際の社会生活に生かせるのではないかと考えました。

次に、教育出版ですが、初めに小学校での学習内容があり、1年生の初めに小学校の復習ができるのはよいと思います。運筆が朱墨の濃淡で示され、筆遣いの基礎・基本の定着が期待できるよう工夫されているなど感じます。硬筆教材にある「竹取物語」や「枕草子」などの古典は国語の教科書にも取り上げられており、書くことで古典がより身近になるのではないかと思います。また、建築様式に適合する書について取り上げられているのですが、多様な文字を知るということは、文字の芸術性に関心を持ち、やがて高校での芸術科目としての書写にもつながる、そんな発展性も感じさせました。

最後に、光村図書出版ですが、まず基礎編で、基本姿勢や道具の使い方など、泉委員がおっしゃっていたように、小学校での学習内容が示され、今まで身につけてきた内容の確認ができるのはよいと思います。また、手書きで伝票の書き方などが載っておりますが、日常生活に生かせる教材や資料が見た目にも見やすく配置され、効果的に文字を書く、そんな態度が養えるのではないかと思います。

委員長 井上委員。

井上委員 私は、全体の構成や見やすさについてお話ししたいと思います。どの教科書も3年分が1冊に適量でまとまっていて、3年間を見通しながら随時復習もできる構造になっています。

三省堂の教科書ですが、全体として落ちついた色調で、まとまって見やすいという印象を受けました。見開きの中に、書く前に考える部分と実際に書く部分とがあるのですが、その紙の背景の色が分かれていてわかりやすくなっています。また、項目ごとにマークが決まっていたり、手本の位置などページのレイアウトとか、それから、導入、練習、復習のパターンというのがほぼ統一されて、毎回同じですので、全ての生徒が安定し

て使える配慮がされていると思いました。また、金箱委員からもありましたけれども、巻末の資料編では、学習場面や社会生活で実際に使うための例が数多く示されています。例えば、マジックで書く掲示物、ノート、願書、原稿用紙、手紙のほか、のし袋や宅配便の伝票など、実用的で学習意欲につながると思いました。

次に、学校図書ですが、この教科書は、教科書2ページの見開きを使って、半紙の原寸大の手本や、織り込みのページを使った書き初めの原寸大の手本が多く用意されています。同じ大きさの手本があることで、書き方が図で示されておりまして、また、筆遣いを墨の濃淡で視覚的にわかりやすく示していることなどをとって、生徒にとって学習の助けになる配慮がされているなと感じました。「書写の窓」というコラムがあるのですが、そこでは、文字のルーツとか、手紙のマナーなど、興味を引かれるトピックを提供していて、生徒が意欲的に学習に向かえる工夫がされていると感じました。

委員長 そのほかはいかがでしょうか。

ご意見が出尽くしたということで、書写を終えまして、地理に移りたいと思います。ご意見をお願いいたします。本橋委員。

本橋委員 各発行者の教科書をずっと見てまいりました。小学校での学習を踏まえて、基礎・基本がしっかりと身につくように工夫をしているところがよくわかりました。私からは、東京書籍と帝国書院の教科書について述べさせていただきます。

まず、両発行者で言えることは、写真、統計、グラフといった資料がバランスよく配置され、情報量が豊富であるということです。それは、社会的事象を多面的、多角的に捉えて思考していく上で大変有効に働くものであると捉えます。

東京書籍では、「地理スキル・アップ」ですとか「深めよう」

といったコーナーで学習に必要な機能を定着させたり、学習を掘り下げられるような工夫をしています。「深めよう」のところでは、世界各地の環境課題等への取り組みなど世界の今をつかむことができ、生徒のもっと学びたいという探求心を刺激するような工夫になっていると思います。

帝国書院の教科書につきましては、「技能をみがく」ですとか「やってみよう」といったところで、統計資料の使い方ですとかグラフ化など、学習に必要な技能を身につけるような工夫がなされております。また、章の最後では、学習内容の定着とともに、知識を整理して考察していく力を養う課題を設定しています。一方、節の初めでは、各国の特徴的な景観ですとか、文化、自然に関する写真を大きく扱って、地図と結びつけることで位置関係をつかむことができ、導入ページとしてのよさが強く感じられました。ハザードマップの活用法の学習におきましては、鎌倉市の津波ハザードマップと津波避難訓練を取り上げていまして、本市の場合と対照して、生徒が関心を持って学習できる場所もよい点であると思います。

委員長 ほかにいかがでしょうか。橘田委員、お願いします。

橘田委員 私は、帝国書院と日本文教出版についてお話しいたします。

初めに、帝国書院についてですけれども、まず、カラーユニバーサルデザインへの配慮がとてもしっかりとされている、大変見やすい教科書だと感じました。また、生活の様子が見える最新の写真が豊富で、図、グラフ、写真の各領域でバランスがよく、生徒の学習意欲の向上に有効と感じました。防災、減災については記述が豊富であり、最新の情報がわかりやすく掲載されています。津波対策などが求められている本市にとって、生徒の防災意識を高める上で大変有効であると感じました。

日本文教出版についてですが、まず、紙の重量が抑えられて

おり、軽い紙を使用しているので、持ち運びにとってもよいと思いました。また、「声」コーナーにおいて、各地域で暮らす人々の生活から多文化社会の重要性を理解することは意味深いと感じました。本市における外国籍の生徒への理解を深めることもできると感じました。

委員長 ほかはいかがでしょうか。泉委員、お願いします。

泉委員 私は、自分たちの生活と世界とのつながりに生徒の目を向けさせる工夫という視点で、東京書籍と帝国書院についてお話しさせていただきます。

初めに、東京書籍ですが、世界のさまざまな住居の特徴的な写真を6種類掲載し、その写真の読み取り方を説明しています。家の周りにはどんな植物が生えているか、住居の素材は木なのか、石なのか、それとも動物の皮なのか、雪の塊か、屋根の形はとがっているか、丸くなっているか、そのようなことに目をつけ、違いや共通点を探ることにより地域の特色を理解させようとしています。自分たちが毎日住んで暮らしている日本の家屋やマンションとは全く違った住環境があることを知ることで、そこに住む中学生の暮らしや営みに思いをはせることができます。また、インターネットでの情報収集での注意点や効果的な検索方法、地理情報システム（GIS）のパソコンでの活用など、現在を生きる生徒に必要なスキルについても扱っています。

次に、帝国書院ですが、表紙を1枚めくると、「世界に広がる日本の文化と技術」と題して、柔道、そろばん、けん玉、カラオケ、コスプレ、回転ずしなどがどのように世界に伝わっているかについて、写真を効果的に使って紹介しています。また、その次のページでは、「日本の中で進む国際化」として、外国人旅行者や被災地での外国人ボランティア、茶道を体験する留

学生などを紹介しています。これらのページも含め、この教科書では、大き目でインパクトのある写真を効果的に配置し、視覚への訴えかけを重視していることが感じられます。また、世界の略地図の書き方がとてもシンプルなので、これなら自分でも書けそうだなと思わせてくれます。略地図がさっと書けることで学習が効率的に行うことができますし、また、理解の定着にもつながります。234ページには、工業地帯の移り変わりの記事に藤沢市のことが記述されているとともに、関東地方の工業分布図にも藤沢の記載がありますので、郷土への関心を高める1つのきっかけになりそうです。

委員長 中村委員。

中村委員 冒頭に、国語のときに金箱委員がお話ししていたように、やはり学習指導要領の趣旨から考えたときに、社会に限らず、どの教科も言語活動を重視しているというのは間違いないところだと思います。特に市内の実態を見ても、各校の研究なり、授業でも積極的に言語活動が研究されているということもあり、私は、そのところを編修の趣旨と絡めて、東京書籍と教育出版、帝国書院の3者にかかわってお話をさせていただければと思います。

まず、どの発行者についても生徒の興味・関心を高めるために、言語活動をより効果的に行うためのコラムとか特設ページ、あるいはコーナーと名前をつけている、そのようなさまざまなページを設けているというのが特徴で、それぞれ発行者によって違いがあるというように思います。

まず、東京書籍につきましては、県の資料によりますと特設ページが非常に多く設定されていることが述べられていますけれども、それによってスキルアップを適宜盛り込む機会が多くなり、また、自分の言葉で説明したり、あるいは理由を考えさ

せるというような工夫に活用できるのではないかと感じます。また、段階的に言語活動になるように配慮されているところ、例えば、見開きごとに短時間で行える言語活動が盛り込まれている、あるいは、まとめ方についても多様な方法を示している、また、言語活動のポイントは何かというようなところを考えながらまとめているのではないかと思います。また、その言語活動に必要な資料についても多数用意されているという点も特色ではないかなと思います。

続いて、教育出版です。教育出版については、「読み解こう」「ふりかえる」といったコーナー、特設ページが設けられていますけれども、これによって、自ら考えて表現をするといった課題が設定されています。例えば、「読み解こう」については、具体的な資料を読み取りながら考察する、資料から考察という学習を重視したり、また、「ふりかえる」というところについては、段階的に表現活動に取り組めるような構成になっています。段階的というのはどういうことかということ、習得、活用、そして最後に探求という段階のことですけれども、その考えを基本にして言語活動のまとめを進めていこうというものになっています。教育出版については、そのほかに自分の言葉で説明するということが随所に出ているのも特徴ではないかと思います。

最後に、帝国書院につきましては、多角的な視点から学習内容を確認、整理できるようにということで、「確認しよう」「説明しよう」というコーナーが設けられていたり、また、自分の言葉で表現する力を育てるために作業の設定をしているのですが、それも「説明しよう」「技能をみがく」、「学習をふりかえろう」といったそれぞれの特設ページがありまして、そういうところで言語活動を進めていこうというような特徴があります。東京書籍と同様にやはり資料が多く用意されているのが特徴かと思いますが、ただ資料を読むということだけではなくて、

読み込んだ上で考察に結びつけていくというような点も見逃せないのかなと思っています。

最後に、本橋委員や橘田委員からも話がありました防災についてなんですけれども、3者ともそれぞれの視点から意識を高める工夫がなされているなと思っています。東京書籍でしたらふだんの備えの大切さとか、教育出版でしたら横須賀市を例にハザードマップを考えていく、帝国書院は先ほど話がありました鎌倉市の避難訓練の例などを挙げているというところがありますけれども、それぞれ印象に残ったところです。

委員長

ほかはいかがでしょうか。地理に関してはよろしいですか。

それでは、地理を終えまして、歴史に移りたいと思います。ご意見がある委員は挙手をお願いいたします。吉田委員、お願いします。

吉田委員

私は、大きな歴史の流れをつかむという点と、学んだことを自分の言葉で表現する活動ということについて、東京書籍と帝国書院について述べたいと思います。

東京書籍では、歴史の大きな流れや各時代の特色をつかむために、章の最初にイラストや写真が時代順に、すごろくのように見やすく並べられていて、そこで小学校の既習事項も確認できるというような仕組みになっています。また、章の最後には、そのまとめで、この時代の特色を捉えようというようなところで、時代の大きな流れを振り返る工夫がありました。また、学んだことを自分の言葉で表現する活動についても、「歴史スキル・アップ」や「深めよう」のページで興味や関心を広げるテーマの資料の提示がなされたり、「調査の達人」というところで調べ学習の進め方のヒントが示されたりしていて、言語活動に取り組みやすい工夫が見られました。

帝国書院も同じように、各時代の特色をつかむために、章の

最初に「タイムトラベル」というその時代の人々の生活がわかりやすいように書かれた見開きのイラストがあって、生徒たちは楽しみながら時代のイメージをつかめる工夫がありました。章の終わりには、もう1度そのイラストのページに戻って、確認したり、説明したりすることで学びの深まりを確認できるのもよいなと思いました。また、学んだことを自分の言葉で表現する活動についても、「トライアル歴史」や「歴史を探ろう」というページに資料や図版が多く用いられているところ、ところどころに「技能をみがく」という囲みがあり、調べ学習の方法や資料の読み取り方が学べるところも言語活動に有効だなと思いました。

委員長 ほかにいかがでしょうか、本橋委員、お願いします。

本橋委員 私からは、東京書籍、教育出版、学び舎の教科書について述べさせていただきたいと思います。

東京書籍の教科書は、歴史事象や学習への関心意欲、こういったものを高める工夫が随所に見られます。小学校では、人物の働きですとか代表的な文化遺産等を糸口に我が国の歴史を学んでいきますけれども、導入ページの「歴史の流れ」では、先ほど吉田委員のご発言にもあったのですが、歴史上の代表的人物のイラストから歴史の流れがつかめ、学習への関心を高める入り方となっていると思います。こういった工夫につきましては、各章の初めの年表にも言えることだと思います。いずれにしましても、生徒に大変受け入れられやすい表現の仕方であると考えております。また、学習内容に関連した知識を得られるように「歴史にアクセス」などのコラムも設けられておりまして、学習を丁寧にサポートしているところに好感が持てます。写真ですとか、そのほかに図版、資料等も大きく、大変使いやすい教科書になっていると思います。

一方、教育出版の教科書でも、第1章で小学校の歴史学習との接続、関連を図っておりまして、歴史上の人物を焦点化して取り上げるなど工夫が見られております。また、本文の学習に即して、手がかりをもとに資料を読みとったり、あるいは考えを深めるコーナー、そういったものを設けて、自分の言葉で表現する活動などを取り入れたりするなど、さまざまな方法で基礎学力を育成するための工夫を図っていると思います。

学び舎の教科書につきましてはA判になっておりまして、他の発行者の教科書よりも若干背が高い教科書になっております。章の扉ページを見開きにしてテーマ性を持たせて、写真、資料や解説文をうまく配して構成しています。また、各章の終わりの部分では、歴史の流れをまとめる、資料を説明する、時代の特色を言葉で書く、意見交換をするなどの課題を設定しているところも、先ほどの言語活動という視点から考えますと大変工夫されている点かと思われまます。

委員長 渡邊委員。

渡邊委員 私は、本市の生徒の実態や地域の特性との関連といった観点で、3者の教科書について述べさせていただきます。

まず、東京書籍の教科書ですが、この教科書では、「深めよう」「私たち歴史探検隊」の中で、地域の歴史を調べてみようといった学習活動を提示しています。市内の中学校の中には、鎌倉ですとか横浜港周辺を学習場所にして、事前に下調べをして、実際に現地をめぐる学習を行っているところがございます。また、藤沢市内には旧東海道の藤沢宿があり、また、江の島や大山に通じる街道もありますので、身近な地域の歴史を調べる学習がより一層展開できるものと思います。

同じ視点で、次に、帝国書院ですが、この教科書でも「身近な地域にひそむ歴史を探ろう」が取り上げられていて、地域の

歴史の調べ学習の方法ですとか、テーマが例示されています。また、この教科書は、「世界に開かれた港・横浜」において、横浜から新しい文化が各地に広がったことも紹介されています。

最後に、育鵬社の教科書ですけれども、最初のページを開きますと「日本の美の形」が設けられていて、ここでは写真を多用して、日本の豊かな伝統と文化について各時代を代表する文化遺産を例示して紹介しています。また、60、61ページには、課題学習ということで、「奈良・京都の文化遺産を調べてみよう」というコーナーが設けられております。最初のページとあわせて、本市の中でも、京都、奈良への修学旅行をしておりますので、事前学習の参考になる内容になっていると思います。

委員長 岩本委員、お願いします。

岩本委員 私は、東京書籍、帝国書院、日本文教出版の3者について意見を述べさせていただきます。

まず、東京書籍についてです。小学校との系統性、地理、公民との関連性、地図帳との連携を意識した構成になっている印象です。各章において年代順に並べられた写真で、その年代の特徴や歴史的な流れをイメージさせる内容になっており、前後の時代との関連を把握するのにも役立っていると思います。また、全体に文章、図、グラフ等のバランスがよくてすっきりしており、本文の説明が簡潔で読みやすく、まとまりがよいというふうな感じがいたします。

次に、帝国書院についてです。各時代を象徴するイラスト、「タイムトラベル」を掲載することで、時代の特色をイメージしやすくする工夫がなされていると思います。歴史的な事象を考察し、判断する力を育てるため、異なる意見を併記している部

分も工夫が感じられます。また、構成では、判が大きくなった分、編集に工夫がなされており、図や写真も大きく、とても見やすくなっています。また、説明文は簡潔で、読みやすくなっている印象があります。

次に、日本文教出版です。この教科書は、生徒が意欲的に楽しく歴史について学習を進められることを目指していることが感じられます。伝統や文化の特色を広い視野に立って取り上げることで、歴史的事象を多面的、多角的に考察できるように工夫されています。単元の初めにその時代の特色を示し、それまでの時代との変化を示す工夫もありました。また、生徒の疑問を想定し、ポイントごとに取り上げている点も特徴と言えらると思います。いずれの教科書も、歴史上の出来事が単独の扱いではなく、その前後の時代との関連や歴史的背景から考えさせるような内容になっています。その出来事がなぜ起きたのか、どんな目的で起きたのか、そういったところを大切にしているのは、全ての教科書に共通して大切にされていると感じました。

委員長 若林委員。

若林委員 私は、まず、構成・分量・装丁・表記・表現の観点から、清水書院、帝国書院、自由社について述べたいと思います。

帝国書院でありますけれども、A B判で大きくて、見やすく、文章の表記についてもわかりやすい表現であると思います。1時間分の授業として、見開き2ページの中で、学習内容を印象づける写真が左上にまず載せられているのも構成の特徴だと思います。

次に、自由社ですが、文章量が豊富である一方で、写真や図版、図表がコンパクトにまとめられて、見た目にゆとりのある構成になっているかと思えます。また、清水書院はB5判でありますけれども、本文と両脇の資料の部分が明確に色分けされ

て、見やすく、わかりやすいと感じます。

そしてもう1つ、学んだ内容から、生徒の実際の生活に活用できる学習という観点で述べます。帝国書院は、「学習をふりかえろう」という項目で学習の整理をし、思考力を高めるよう工夫されていると思います。各時代の特色をまとめる「時代をふりかえって」という項目が設定されるとともに、各時間ごとにもふりかえるところが設けられ、学習したことを確かめ、説明できるように工夫されています。

次に、自由社は、各章のまとめにそれぞれの時代を比較しながら意見を出し合えるような設定がされています。そして、各見開きページに「まとめにチャレンジ」が設定され、要約したり、説明したりできるように工夫されています。

そして、清水書院ですが、初めの部分で、生徒が話し合いながら各時代の特色をまとめることのできるYチャートという方法がわかりやすく示されています。また、「まとめてみよう」「深めよう」のところでは、自発的な学びにつながっていくように工夫され、さらに、「もっと知りたい歴史」「歴史のとびら」のところでも、各自の学習のきっかけとなるように工夫されていると思います。

委員長 中村委員。

中村委員 それでは、私は、先ほどの地理と同様に、言語活動を中心とした編集の趣旨等にかかわって、東京書籍、教育出版、育鵬社についてお話をさせていただければなと思います。

まず、東京書籍ですけれども、まず1つ私が思ったのは、教科書本文については、本文中に注が幾つかあるんですけれども、資料の補足、あるいは説明、用語の解説が丁寧に付してありまして、あちこちのページに飛んで見るというようなことが比較的少なく、その場で見開きで理解できるような形を考慮して

いるのではないかと感じました。また、その文章を読んでの次の言語活動ですが、言語活動を図るために、やはり同じくさまざまなコラムとか特設ページが設定されていると思います。全体としては、これは市の調査にもありましたが、多角的、多面的な考察が行えるように工夫されているのではないかとということです。また、調べ学習や地域学習の記述についても割合ページを割いているように感じました。先ほど渡邊委員から話がありました地域の調査というところに関してですけれども、「私たち歴史探検隊」、「地域の歴史を調べてみよう」の「調査の達人」というコーナーがあり、こちらでは、グループ内で調査の結果や、成果を共有したり、あるいは提案できる学習を意図しているということで、ふだんの教室の学習活動を念頭に置いているのではないかなと感じております。

続いて、教育出版ですけれども、やはり多面的、多角的な見方を考察するために、特に資料を的確に活用しようというようなところが重視されているのではないかと思います。市の調査では「読み解こう」というコーナーが上がっていましたがけれども、こちらでは、幾つかの手がかりとか、具体的な手がかりをもとにして資料を読み取り、そこから具体的に考えを深めたりするような工夫がなされていて、資料の活用を中心として読解力のアップも図り、さらに考察する学習や説明する学習につなげていこうという構成になっているかと思います。先ほどの地理と同じスタンスで、「ふりかえる」「学習のまとめと表現」というコーナーでは、段階的な表現活動とか、また、自分なりの言葉で説明するというところも述べられていると思います。

最後に、育鵬社です。育鵬社では、「学習のまとめ」というところが市の調査では話題に上がっていると思います。「学習のまとめ」については、まず見開きに設定をされているのですけれども、毎時間の学習の中で生徒の思考力や判断力、あるいは

は表現力を育めるように工夫されています。そのほか、各章、それから巻末等に同じようにまとめが設定されていまして、学習内容の活用とか、歴史を大観する、それから、表現活動を通して学力を高めていこうというような点が重視されている、そのようなテーマでまとめというものが設定されているのではないかと感じます。趣意書によりますと、多彩なコラムが設けられているということですが、それによって我が国の歴史や伝統文化、さまざまなところを複眼的に見ていく、これは多面的、多角的と一緒なんですけれども、そのようなことを意識しているのではないかと思いました。

委員長 ご意見、ありがとうございます。そのほかに歴史に関していかがでしょうか。

それでは、ご意見が出尽くしたということで、歴史を終えて、公民に移りたいと思います。委員の皆様、ご意見をお願いいたします。本橋委員。

本橋委員 社会科の教科目標は、小中学校共通して、「国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」と学習指導要領で示しています。この目標とともに、教科学習を通して学び方を学ぶということも踏まえまして、各発行者から特色のある教科書が編集されているなと思います。そういった中で、東京書籍と帝国書院の2発行者の教科書について若干述べさせていただきます。

東京書籍の教科書は、各章の扉ページに、3から4ページの写真がその章での学習内容を示唆していまして、学習の見通しを持たせるとともに、学習課題の把握にも効果的であると思います。写真の大きさに変化を持たせて、グローバルな視点での社会の課題を浮き彫りにしているなと感じております。また、人権作文や防災に対する自治体の取り組みですとか課題を載せ

たり、広範な視点で社会を見詰めたりということで、さらに詳しく学ぶことができるトピック的なページづくりをしているところも特色であると言えます。学び方を学ぶという点では、学習を進めていく上で、各キャラクターの吹き出しが効果的だと思います。また、これは地理等の分野でも言えるところですが、統計資料ですとか、写真が新しく、表やグラフの資料の色合いも目に優しく感じました。

また、帝国書院の教科書は、各章の左ページに学習内容を示唆する人々の生活の具体場面ですとか、今日の国民生活上の課題、それから社会の動きといったものを取り上げて、クエスチョン、はてなの問いかけで生徒に課題意識を持たせて考えさせるような構成になっているところが特色であると思われます。言語活動との関連で、意見をまとめたり、話し合ったりする課題設定の「トライアル公民」ですとか、知識の応用、活用を通して身につくように工夫してある「学習をふりかえろう」といったところもあります。表、グラフ等がバランスよく配置されて、やはり東京書籍の教科書と同様に、それらの色合い等も大変工夫されて見やすい教科書であると思いました。

委員長

渡邊委員

渡邊委員

先ほど本橋委員のほうからもありましたけれども、私も、学習指導要領の目標、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う、これはとても大事なことだと思います。こうした素地をどのような形で養っていくのかという視点で、3者の教科書について述べさせていただきます。

まず、東京書籍ですけれども、各章の初めに導入のページ、また、各章の終わりにまとめのページを配しておりまして、生徒の理解しやすい工夫がされています。また、多様な話し合い活

動によって学習を展開するように工夫されています。また、各所にインタビューのコラムを配していて、実際に社会参画している人々の姿から、みずからのあり方ですとか生き方について考えられるように工夫されています。

続いて、教育出版ですけれども、「『未来への私の約束』をつくろう」というコーナーが設定されています。これから社会を築いていくために自分には何ができるのかを考え、まとめとしての学習を行うようになっていきます。また、「読んで深く考えよう」「つなげたい、日本の伝統や文化」を設けておりまして、伝統や文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養うような工夫がされています。

最後に、育鵬社ですけれども、各章の導入に「法の入り口」、あるいは「政治の入り口」といったその章の学習内容を捉えた話合い活動が行えるようになっていきます。また、118ページに「やってみよう 観光資源を探そう」というコーナーが設けられておりまして、観光都市としての本市の特徴や課題についても身近に考えられる形になっています。

委員長 中村委員。

中村委員 私は、東京書籍と教育出版、清水書院についてお話をさせていただければと思います。

東京書籍につきましては、生徒が主体的に参加し、考えを発表しやすい課題を設定、活発な言語活動により思考力、表現力の向上が図られるようにというような趣旨で編集をされています。身近な問題から考えられるように、多くの特設ページとかコラムが用意されています。また、文献とか図表についてもかなり多く取り入れられているのではないかという印象を持ちました。また、言語活動の具体的なものとしては、「やってみよう」とか「公民にチャレンジ」といったコーナーがあるんです

けれども、そちらでは小集団での話し合い、これは実際に教室での活動というのが想定できるわけですがけれども、そのようなコーナーも設けられているのが特徴ではないかなと感じました。

続いて、教育出版です。教育出版についてはさまざまな表現活動、手法が紹介されているというのが大きな特徴ではないかと思えます。その手法というのは、具体的には、ディベートとかシミュレーション、プレゼンテーション、ポスターセッションといろいろあるのですが、そういうようなものをただ言葉だけではなくて具体的に明示しているというところが特徴であろうと感じます。そのほかにも新聞の活用法が示されていたりということで、幅広い知識と教養が身につけられるように工夫され、構成されているのではないかと思いました。また、見開きごとに「ふりかえる」というコーナーも設定されていて、段階的に言語活動、表現活動に取り組めるように編修がなされていると思えます。

最後に、清水書院です。清水書院は、社会的事象や今日的課題を追求し、多面的、多角的な考察をする技能を育てるといったようなところを編修のポイントとして考えています。具体的には、「深める公民」「もっと知りたい公民」といったまた幾つかの特設のページがあるんですけども、まず、いろいろな資料を当たり、次に作業学習とか調べ学習を行うといったようにつなげられる、そのように活用できる構成になっていると思えます。清水書院は読み物数も多くなっていますが、ただ読み物があるだけではなくて、そこにさらに複数の統計資料がついていて、さまざまな思考力、判断力の材料になるようなものが備えられているのではないかと思いました。

委員長 金箱委員、お願いします。

金箱委員 それでは、私は、帝国書院、自由社、育鵬社について述べさ

せていただきます。

まず、帝国書院ですが、本市の調査資料にもありますが、「クローズアップ」というところで実社会の動きと関連させていて、制度や仕組みの理解を進め、公共の精神を養うという工夫が感じられました。さらに、単に知識だけで終わらないように、例えば、国会議員への取材など具体的な内容を取り入れ、社会事象を身近な問題として生徒が捉えられ、その仕組みや課題などに目を向けさせ、社会への参画意識を高めようとする意図が感じられました。

次に、自由社ですが、単元が序章から通し番号でつけられており、初めに何を学ぶのかが提示されて、ここが知りたいというところで単元の学習目標を体系的に振り返ることができる構成だと思います。これは学習の定着が図れるのではないかと感じました。また、「もっと知りたい」というコーナーが設けられ、興味・関心や考えを深められるよう工夫がなされているなと感じました。各章の終わりの「学習の発展」では、生徒みずから課題を選び、まとめるという設定がありまして、言語活動の充実につながるのではないかと思います。

最後に、育鵬社ですが、写真や図、あるいは表などの資料が大きく、見開きごとに通し番号がつけられており、見やすいなと感じます。新聞記事を取り上げるなど、現代社会に対する知識、理解を深め、かかわりを考えたり、参画意識を高めるような工夫がなされていると感じました。また、「考えよう」「やってみよう」などの課題が設けられており、あるいは、先ほど渡邊委員がおっしゃっていましたが、各章の入り口での話合い、また、レポートの作成を体験する活動は言語活動の充実につながるのではないかと思います。

委員長

石曾根委員。

石曾根委員 では、重なるところもあると思いますが、私からは、東京書籍、帝国書院、そして日本文教出版の教科書について発言いたします。

まず、東京書籍ですが、学習から育てたい力を重視し、「公民にアクセス」が設けられていたり、日常的、段階的な言語活動で、思考力、判断力、表現力を育むように、各見開きに、説明、要約など、机マークで学習内容の確認が設けられていて、工夫されています。中学生とのかかわりを多く紹介していて、自分に置きかえて考えられるようになっていきます。そして、社会参画への意識と態度を養うために「公民にチャレンジ」があり、学習のポイントとなる部分では話し合い活動などが行えるように工夫されていて、深まりを持ちやすいと感じました。写真や地図、グラフ等豊富な資料から興味を高められ、視覚的効果が高い幅広のA B判を使用しています。

次に、帝国書院ですが、実社会との関連で制度や仕組みを理解させる工夫や、「クローズアップ」やコラムが設けられ、生きた知識を身につけられる工夫があります。防災、安全、環境、伝統文化等について理解が深まるように配慮されていて、地理、歴史的分野との関連が意識されていたり、日本が国際社会に果たす役割について本文中で説明し、深められるようになっていきます。幅広のA B判で、「確認しよう」「説明しよう」で習得に向けて工夫されているとともに、復習しやすいように「学習をふりかえろう」ということを設けて配慮されていると思います。

最後に、日本文教出版です。基本的な知識の習得から活用する課題までの流れが重視されています。各編冒頭にポイントをイラストと新聞記事で考えるナビを設け、関心、意欲が持てるように工夫されています。章末に「チャレンジ公民」があり、知識と見方や考え方を活用する学習として設けられています。実際に点字で表示されているなど、興味・関心が深まりやすいと感じています。A B判の仕様で見やすく、思考力、判断力、

表現力を培う言語活動コーナーがあり、整理しやすいと思っています。

委員長 このほかに何かご意見はございますでしょうか。

なければ、公民に関してはこれで終わりにしまして、地図に移りたいと思います。地図に関してご意見をお願いいたします。中村委員、お願いします。

中村委員 それでは、地図についてですけれども、私は、1つ目と3つ目の観点です。編集の趣旨と、それから本市との関係のところで、帝国書院について特にお話をさせていただければと思います。

まず、市の調査、あるいは県の調査、それから趣意書にも書かれていますけれども、帝国書院の地図については、やはりわかりやすさとか見やすさというところに重点が置かれていると思います。例えば、日本の基本図を3ページ大の見開きにしており、北海道から沖縄までが切れなようなページ構成になっている。また、縮尺を100万分の1なら100万分の1になるべく統一をして、さまざまな図になっても見やすいように、大きくなったり、小さくなったりということがないように統一している。また、世界地図の随所に日本地図が入っているんですけれども、同緯度、同縮尺の日本地図が配置されていて、例えばヨーロッパなり、アメリカなりと比較した場合にこれがどの位置なのかとか、どのくらいの大きさなのかということがわかりやすくなっているというところで特徴があるかなと思います。

また、地図の冒頭のところで5ページにわたって地図の使い方というのが掲載されていますけれども、かなり丁寧に書かれておりまして、地図活用のスキルアップ等も目指していると思います。また、先ほど歴史のところでも渡邊委員からも話があり

ましたが、学校行事、そのほか遠足、修学旅行等もあるんですけども、そのようなところで使えるもの、例えば野辺山が掲載されている、これは八ヶ岳の関係ですけども、そういうものが掲載されているとか、それから、歴史と関連して東海道の宿場町がわかるようになっている、そういう記載についても配慮されています。逆に比較的新しい資料もあるなど思ったのは、例えば、2020年のオリンピックについて、これはまだ概要なんですけれども、それでもかなり先取りをして掲載を図るということですから、そういう面でも特色があるかと考えております。

本市との関係のところでは、帝国書院の地図帳については、災害や防災の記述が比較的多いかなと私は感じております。特に防災における地図の有用性というのを重視しているのですが、防災については、地震のみではなくて、例えば都市型洪水についても、これは今、藤沢でも課題になると思いますが、そのようなことについても記載があるということで、かなり積極的にさまざまな情報を取り入れているなど感じました。

委員長 では、天利委員、お願いします。

天利委員 では私は、2者ですので、両方とも2番目の観点の構成や表現、それから3番目の地域の特性といった観点についてお話ししたいと思います。

地図は、3年間通していろんな授業、社会科だけではなくてほかの教科でも使うことができるものなので、長く使えるよというということで、両方ともに堅牢で、糸でかがったり、頑丈につくってあるという工夫がされていて、卒業まで十分使えるのだなと感じました。

東京書籍のほうですが、写真や絵を豊富に取り込んであって、たくさん地図記号を使っているんですね。関東の地図を見ると、

三浦大根のような農産物という表記があったり、箱根のほうでは寄せ木細工の工芸品などの地図記号といますか、絵があったり、それからJRの辻堂駅が載っているというのは私もびっくりしたんですが、そういうところも記載されているので、藤沢の子どもたちにとっては地図を見る楽しみというのはとてもふえるかなと思いました。

一方、帝国書院ですが、折り込み、見開きの地図があったときには、折り目のところにニスが引いてあって、ニス引き加工というんでしょうか、破れないような細かい工夫がされているというのはすごいなと思いました。また、ほとんどの地図に位置図というのが載せてあって、今のページの地図が日本や世界のどこに位置するのか端的にわかるようになっているので、特に広く全体を捉えることが苦手な生徒にはうれしい配慮かなと思いました。

また、どちらの教科書も、修学旅行などで活用できるように京都や奈良の寺院をわかりやすく示した地図があるのですが、事前学習などではそういうのもとても活用しやすいと思いますけれども、帝国書院のものには本州中央部という地図があって、東京あたりから大阪、京都、奈良のあたりまでの地図というのが載っているんです。ちょうど修学旅行で通る地域ということがあるので、生徒の活動を深めたり、広げていくことができる内容になっているなと思いました。

委員長 ほかはいかがでしょうか。本橋委員。

本橋委員 学習に用いる地図上帳は、知りたい場所、あるいは地域をすぐに見つけて、その様子が詳しくわかるということが求められていると思います。また、地理の学習ばかりではなく、歴史、公民的分野での学習でも幅広く対応できるような編集がなされていないかならないかと思っております。

そういった観点で、東京書籍と帝国書院の地図帳はともにその役割を十分担っていると思います。統計資料も最新でありまして、図表も含めとても充実しているなど感じます。多角的に、あるいは多面的に社会的な事象を捉えていく上では十分なものであると思いました。また、そういった共通に言える部分とともに、東京書籍の地図帳では、地域ごとの基本図、あるいは部分図の見出しに各地域の「注目したい記号」の欄が設けられていたり、あるいはテーマ資料のコーナーで資料をもとに考えることが記載されているなど、工夫が見られました。日本の自然環境につきましては、災害と環境問題について見開きの2ページで構成していきまして、防災、安全教育という観点での活用が期待できます。

帝国書院の地図帳につきましては、先ほど中村委員が深くお話しされていましたが、地域ごとの基本図、部分図の中に地図活用の技能が身につけられるような学習課題が設けられているところ、それから、資料図には資料を読み取る視点や考えることが記載されていたり、こういったところに着目することで子どもたちは学びを深めることができるのではないかと思います。また、ヨーロッパ州、アジア州、北アメリカ州の資料図、こちらは鳥瞰図になっていきまして、私も実際に地図を見ている中で、本当に夢中になってしまうような感じがしました。土地の様子を体感しやすい、そういった効果ばかりでなくて、地図帳から伝わってくるさまざまな表現方法のおもしろさというのも、生徒自身、こういったものを見ることで感じてくるのではないかなと思いました。

一方、日本の災害、防災につきましては、見開き2ページでボリューム感を持って取り上げております。学習のみならず、幅広い生活場面での活用も可能であると感じております。各ページの地図が鮮やかな色遣いで表現されていることで土地の高低差がつかみやすく、また、索引も細かくなっていきまして、活

用しやすいつくりになっているなと思いました。

委員長 そのほかに地図に関して何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

 ちょうど今、1時間半ぐらい経過しておりますので、1回休憩を入れたいと思います。10分ほど休憩を入れたいと思いますので、この会場の時計で35分になりましたら審議を再開したいと思います。

 それでは、休憩といたします。よろしく申し上げます。

午後3時27分休憩

午後3時37分再開

委員長 それでは、ただいまより審議を再開いたします。

 地図まで終わりましたので、数学から審議をしていきたいと思えます。審議委員の皆様、数学に関してご意見はございますでしょうか。岩本委員、お願いします。

岩本委員 算数から数学に変わるに当たり、その一番の入り口である正の数、負の数の丁寧な扱い方に着目して見させていただきました。また、数学を得意とする生徒をより伸ばすことのできる発展的な学習への対応についても注目しました。私は、東京書籍と教育出版の2者について意見を述べさせていただきます。

 まず初めに、東京書籍ですが、正の数、負の数の計算についてとてもシンプルな説明でわかりやすく扱われている印象を持ちました。説明し過ぎないことで、教員が授業の中で扱いやすくなっていると思います。全体的に小学校と中学校の学習内容や学習指導の系統性を踏まえ、生徒が主体的に学習できるような内容を目指していることが感じられます。「数学マイノート」では、日常の学習活動の中で、思考の過程や深まりをノートに

書く習慣を身につけさせる工夫がなされています。そのほかにも、日常生活や社会への活用を重視し、数学の有用性を実感できるような内容の工夫が見られます。また、発展学習においては、巻末の資料を利用することにより数学へのさらなる興味を引き出すことが期待できる内容となっていると思われました。

次に、教育出版です。正の数、負の数の計算については、例題から問いへの流れがわかりやすく、数学が苦手な生徒にも学習しやすい内容となっています。これは、わからない問題や間違えた問題に対してもみずから復習しやすい構成だと思えます。教科書においては、このように全単元に一貫した構成は大切であり、生徒の学習のしやすさにとってとても重要だと思えます。また、「伝えよう」では、生徒の数学的な表現を育成し、他者とのコミュニケーションを通して自分の考えを広げたり、深めたりできる工夫がなされています。これは、数学における言語活動の充実に役立っています。そのほかにも、「数学ミニ事典」で取り上げる内容は、数学を日常生活や社会に利用することで数学の実用性を知ることにつながることを期待できます。また、「チャレンジコーナー」「自由研究」を利用することにより、数学が得意な生徒にとっても数学への興味をより引き出すことができる内容になっていると思えます。

委員長 ほかはいかがでしょうか。金箱委員、お願いします。

金箱委員 学習指導要領には、事象を数理的に考察し表現する能力を高め、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を養うと述べられています。このような点から、私は、啓林館と日本文教出版についてお話しさせていただきます。

初めに、啓林館ですが、巻末に「数学を通して考えよう」や、別冊の「Math Naviブック」の「学びをいかそう」というところに思考力や意欲を高める課題が非常に豊富に取り上げられてい

るのではないかと感じます。また、「自分のことばで伝えよう」「みんなで話しあってみよう」というところでは、相手の発言をしっかりと聞いたり、自分の考えを表現したり、課題に対する考え方や理由を導き出すなど、いろいろな答えや解決方法があるという場面の設定があり、言語活動を充実させながら生徒は主体的に数学的活動が行えるのではないかと感じました。

次に、日本文教出版ですが、「数学のたんけん」や「数学マイトライ」を初め、身近にある数学的な事象を扱った内容が多いと思いました。例えば、空き缶リサイクルやペットボトルのキャップの回収、朝食と睡眠の関係、P波とS波などは、他の教科や学校行事などで生徒が学習したり、体験したりする事柄で、環境や生活、あるいは実社会などと数学のかかわりを取り上げているところが印象に残りました。単に計算や解答を導き出すというのではなく、このような横断的な学習を通して興味・関心を伸ばし、数学を学ぼうという意欲が高められるのではないかと感じました。

委員長 渡邊委員、お願いします。

渡邊委員 私からは、2者の教科書について述べさせていただきます。
まず、1冊目ですけれども、学校図書の教科書です。ノートの使用法のページが設けられていて、授業の受け方ですとか、学習の仕方を取扱っています。表現力を身につけるレポートの作成や発表の仕方についても取り上げられており、好感が持てます。また、各学年に数学史ですとか、日本で発展した和算などに関する内容が掲載されていて、数学がどのように発展してきたのかといった歴史的な背景にも触れていて、本市の生徒の学習意欲を高めるものと考えられます。

次に、もう1冊、教育出版ですけれども、3つのキャラクターを役割ごとに各所で使われていて、とても親しみやすいつく

りになっています。この教科書は、章の導入課題として「Let's Try」を設けていて、日常生活にかかわる問題を取り上げて、活動できるように考えられています。また、巻末に学習内容を活用する問題、「チャレンジコーナー」や、数学で大切にしたい考え方が設けられていて、生徒にとって理解しやすい工夫がされていると思います。

委員長 天利委員、お願いいたします。

天利委員 私からは、数学に限ってもいないし、地域の子どもに限ったことでもないのですが、一概に中学生といっても理解の幅に随分差があるお子さんが多いと思いますので、その中で、特に数学は積み重ねが重要となる教科だと思いますので、ユニバーサルデザインという視点からお話ししたいと思います。東京書籍と教育出版についてお話ししたいと思います。

まず、東京書籍ですが、導入とか基本になる問題については、問いの意味のQという記号のみでなくて、枠で囲って字体も変えているので、教科書を開くとまずそこに注目できるというようにつくりになっていました。また、3年生だったと思いますが、二次方程式のところではグラフの表に曲線を書いていかなくはないといけないというところで、升目の中に曲線を書いていくという、とても苦手な子が多いのですけれども、点線をなぞりながら曲線を書いてみるといったような配慮がされていて、ちょっとずつでもステップアップできる配慮をしているなど思っています。巻末のほうに「もっと数学しよう」というところがあって、問題編、課題編の構成になっているので、小学校の算数の振り返りもここにまとまっています。非常に使いやすいと思っています。

次に、教育出版ですけれども、まず注目するのは文字の大きさですが、1年生の1章、2章ぐらい、最初の部分はとても大

きい字体を使っているんですね。それが小学校の教科書と同じフォントを使っているというところがあって、算数から数学になり、ステップアップして内容も難しくなっていくというその最初の部分に抵抗感をできるだけ少なくするという工夫がされているなと思いました。また、基礎・基本の定着という視点では、巻末に補充問題がまとまっていることや、各章でも、定理のまとめりとか、重要なところは文字の色を変えて、字体を変えてというところで、本当に注目しやすい工夫がされているなと思いました。最後ですが、空間図形の学習の導入のページで、一番最初に湘南台文化センターの写真が出ていて、空間図形なので球体の部分だと思うんですけども、みんなが知っている写真が出てくるというのはとてもいいなと思いました。

委員長 ほかにご意見はございますでしょうか。泉委員、お願いします。

泉委員 私は、現在は小学校に勤務しておりますが、以前は中学校で数学を担当しておりましたので、そのときの経験をもとに、学習する生徒の視点から、大日本図書と数研出版についてお話しさせていただきます。

数学という教科は、生徒たちの好き嫌いが割とはっきりしやすい教科です。何のためにこんな学習をするのかという疑問を口にする生徒もいます。そういうときには、数学を学ぶことの意義や有用性を感じることができれば学習への意欲を高めることができると思います。

そのような観点で大日本図書を見てみますと、「社会にリンク」というページが目にとまります。実社会で活躍するさまざまな職業の人たちが中学生に向けて数学を学ぶことの意義を伝えてくれています。気象の予報や選挙の出口調査、野球のデータを分析してチームを強くする話など、興味深い内容が盛り込

まれています。また、巻末に「Mathfulーマスフルー」というページがあります。ここでは、数学の歴史や自然界の中の数学、音楽や美術と数学との関係、さらには数学と関連のある図書の紹介などもあります。日常生活を数学の視点から見直したり、数学の世界の豊かな広がりを感じたりすることができますので、学習への意欲が高まりそうです。

次に、数研出版ですが、こちらは基礎・基本の定着と生徒がみずから進んで学習に取り組むための工夫に力を注いでいると感じました。その1つが、「出発前のクイックチャージ」という復習事項をまとめたページです。基本的な既習事項を確認し、新しい学習へと進むための準備がしやすくなっています。そして、教科書を読み進めると、「ふりかえり」マークというものがあちこちに出てきます。そこでつまずいたときや用語の意味を確認したいときにどのページを見ればよいかが示されています。これは大変親切なアイデアだと思います。例えば、3年生の関数の学習で、 $y = ax^2$ の変域という内容が出てきます。変域という言葉は日常生活ではまず使うことがありませんので、ほとんどの生徒は変域って何だったかなと立ちどまります。そこにある「ふりかえり」マークを見ますと7ページと書かれていますので、7ページを開いてみます。すると、先ほど申し上げました「出発前のクイックチャージ」の中の一次関数のグラフと変域というまとめがありますので、3年生の教科書の中で、まるで2年生の教科書に戻ったように素早く復習ができます。数学が得意でない生徒でも学習を自分の力で進めていくときの助けになると感じました。

委員長

そのほかに数学に関して何かご意見はございますでしょうか。

ないようですので、数学を終えまして、理科に移りたいと思います。委員の皆様、よろしく願いいたします。岩本委員。

岩本委員

理科については、科学に関する興味・関心をいかに引き出す工夫がなされているか、また、実際の観察や実験から柔軟で幅広い分析ができることを導いているかなどに着目して見させていただきました。その中で、私は、東京書籍、学校図書、教育出版の3者について意見を述べさせていただきます。

まず、東京書籍ですが、「学びを活かして考えよう」「考察しよう」「レッツトライ!」「予想しよう」「推測しよう」など、既習の内容を振り返り、それらを活用して考えるような内容になっています。また、話し合い活動や発表の場面を想定した内容にもなっていると思います。そのほかに、巻頭で折り込みになっている写真資料や、各単元の初めにインパクトのある写真を配置するなど、その単元で学習する内容を視覚的に示したり、科学に対する興味を引き出す工夫がなされていると思います。

次に、学校図書ですが、環境教育に関する内容が充実している印象です。環境や持続可能な社会について十分に配慮されている内容で、生徒の環境保全への意識喚起が期待できます。全体的に中学生の学習段階に合った学習内容になっている印象があります。また、これも大きな写真や図を配置することにより、視覚的に理解しやすい構成になっていると思います。そのほかにも、巻末に自由研究課題が多数紹介され、生徒が科学に興味を持ち、主体的に探究できるような内容になっていると思います。

最後に、教育出版です。科学的な思考力、表現力を育むために、「わたしのレポート」で観察や実験の結果分析の方法を身につけられるような工夫がなされていると思います。観察や実験の記載方法に統一性が見られ、結果や考察などが区別しやすいように工夫されていると思います。また、本文が優しい表現で読みやすく、全体の構成がすっきりと整理されている印象が

あります。そのほかに、巻末の資料を利用することにより、生徒が理科学習の有用性を高めることができる内容となっているように感じました。

委員長 天利委員、お願いいたします。

天利委員 私からは、1つ目の観点を中心に、3つの教科書についてお話ししたいと思います。

1つ目は、東京書籍です。小学校で学んだものと、それがどういう発展をして何を学ぶかという中学校の内容をリンクさせてあって流れが見える点が、これからどんなものを学ぶか、どんな学習をしていくかというねらいを確認しやすく、主体的な活動を引き出す工夫がされているなと思っています。「学びを活かして考えよう」が随所にあって、今まで学んできたものを確認するだけでなく、話合ったり、まとめてノートに記述したりする場面が設定されています。探求していくためのヒントが豊富にあって、思考力、表現力の育成につながっていくと考えています。

2つ目は、大日本図書です。各章の初めには、單元ごとに、学習する内容を生徒の実験している姿や機器の写真を見開きで紹介して、言葉だけでなく写真なども含めて学習の内容をイメージできる工夫がされ、視覚的に見通しが持てる内容になっています。単元の最後に、必ず終章として「学んだことを活かそう」というところが設けてあり、学んだことを活動に結びつけて、問題解決のために自分たちで実験を計画し、計画を報告するような設定になっています。言語活動を引き出す内容としても深めていく工夫がされていると思います。

最後に、啓林館ですが、第一印象は、とても鮮やかできれいな写真が随所に入っています。巻末のほうに「きみも科学者」「探求の道しるべ」という項立てがあって、そこでは、習った

ことをもとに、予想の立て方、話合いの持ち方、レポートの書き方、全部を含めて、理科を学んでこれから探求していきましょうというようなヒントが含まれていて、科学的な探求心をグループでの活動や主体的な活動で生かすことができ、探求心を育てる工夫が非常にされているなと思いました。

委員長 泉委員。

泉委員 私は、構成や表記、表現との観点で、学校図書と大日本図書についてお話をさせていただきます。

初めに、学校図書ですが、教科書を開いたときにとっても見やすいなと感じました。写真やイラストの配色が目に優しい自然な色合いに仕上げられています。また、各学年の巻頭に「観察・実験の進め方」の見開きページがあり、各学年で扱う観察、実験の例をもとに説明が書かれています。年間を通して、この見開きページに戻ることによって学び方の確認ができるように工夫されています。また、学習にコンピュータを利用できる場面、例えば、天体観測用ソフトウェアの活用などでは「コンピュータマーク」を入れたり、2年生の教科書では巻末に原子カードをつけたりといった工夫も見られます。

次に、大日本図書ですが、まず、教科書を手にとったときの表紙の写真のインパクトがとても強いと感じました。これからどんなことを学習するのかなとわくわくする気持ちをかき立ててくれます。目次では、水色の長方形で囲まれた部分に発展的な教材がまとめてあり、興味・関心を高めてくれます。紙の質も手によくなじみ、写真やイラストの配色は、学校図書と同様、目に優しく、自然な色合いです。また、「観察・記録のしかた」というところが具体的でわかりやすく説明されています。例えば、デジタルカメラでタンポポを撮影するときには、1枚は花のロゼット全体を撮り、もう1枚は花を横からアップで撮り、

さらにもう1枚は周りの地形やほかの植物も含めて撮るといった例が写真とともに紹介されています。また、インターネットで調べるときの検索語の選び方など、細かい配慮がされています。各単元の終わりにはまとめのページがありますが、これもとてもすっきりとして見やすいので、単元を振り返る意欲が湧いてきます。

委員長 渡邊委員、お願いします。

渡邊委員 私からは、今日、生徒にとって理科で学ぶ内容が日常生活や社会の中でどのように役立っているのか、大変見えにくい状況にあると思います。この点についてどのような取扱いをしているのかということで、3者の教科書について述べさせていただきます。

まず、東京書籍の教科書を見ますと、「from JAPANニッポンの科学」あるいは「科学でGO！」というコーナーがありまして、身近な生活との関連を図っています。なお、「科学の本だな」で科学図書を紹介している点に目がとまりました。

次に、啓林館ですけれども、「はたらく人に聞いてみよう」や「日本の技」で、学習内容を応用した科学技術が実際に活用している人の声を交えて取り上げられているところに好感が持てました。

また最後に、大日本図書ですけれども、「くらしの中の理科」「トピック」で身近な生活や社会との関連を、また、「プロフェッショナル」のコーナーでは職業に関する話題を取り上げており、生徒の興味・関心を高めています。いずれにいたしましても、各教科書ではこうしたページを設けることで、理科で学ぶ内容が最新の科学技術につながる、あるいは、日常生活や社会に役立っていることに関連づける工夫がなされていると思いました。

委員長 木村委員、お願いします。

木村委員 教育出版と啓林館の教科書の巻末の資料の中に、理科で使う算数や数学といった、まとめた資料があったのが私はよいと思いました。特に理科という科目は数学と算数などとのリンクが非常にあると思いますので、そういった他の科目とのかかわり合いをこういったところでまとめてあるのはいいのではないかと感じております。

委員長 ほかにいかがでしょうか。

それでは、理科を終えまして、音楽一般に移りたいと思います。ご意見をお願いいたします。吉田委員。

吉田委員 では、音楽の2者の教科書のまず構成についてですが、教育芸術社は、各巻の初めに「音楽学習MAP」が示されており、歌唱、創作、鑑賞の流れがわかりやすく説明されていると感じました。

教育出版は、学習のプロセスが全学年を通して、「音楽の要素を捉えながら」「さまざまな音楽文化」「歌い合わせ聴き深める喜び」の3つの柱で構成されており、色と記号で分類されているというところが印象的でした。

本市とのかかわりという点においては、教育出版は、2・3年上の「浜辺の歌」において辻堂海岸の写真が大きく掲載しており、藤沢の子どもたちにとっては親近感を感じると思います。

教育芸術社は、辻堂海岸の写真のサイズは小さいのですが、「浜辺の歌」を共通教材の最初に掲載し、1年生から歌い続けることができる、そういう配慮がされているように思いました。また、日本の郷土芸能で、神奈川県三浦市で受け継がれてい

る「チャッキラコ」が阿波おどりや祇園祭りなどと並んで紹介されていることが印象に残りました。神奈川県传统文化に子どもたちが興味を持つきっかけになる教材であると感じました。

委員長 石曾根委員。

石曾根委員 教育芸術社ですが、この教科書を見て、生徒の創造力を育てる配慮がされていると感じました。共通教材において写真やイラストなどが客観的で、情景を思い浮かべるために必要な情報が端的に示されています。歌唱教材、鑑賞曲など、全体を通してユニバーサルデザインが意識されており、シンプルで見やすいレイアウトであると思います。また、装丁では、糸とじで見開きの内側が見やすいつくりになっていて、机の上に置いた状態でもページをしっかりと開くことができ、楽譜が見やすいと思いました。楽譜のレイアウトにおいても丁寧に整えてあり、歌詞やフレーズが途切れないように配慮がされています。さらに、左右のページに段差がついていて、左のページから右のページへ誤って進まないような工夫がされていて、シンプルなデザインとともに、支援を必要とする生徒への配慮も感じています。

委員長 では、鈴木委員、お願いいたします。

鈴木委員 保護者からの意見になりますので、抽象的ではあるかと思いますがけれども、まず1つ目の編修の趣旨と工夫などの観点からですが、教育出版は、「ふるさと」や「浜辺の歌」など、私自身も習ったような懐かしい曲から、ラップなどの新しい音楽まであり、その幅広さを感じました。特に「ふるさと」は学年が進むにつれ学習が深まる工夫がされているところがおもしろい

と思いました。また、日本各地の祭りなど、曲にまつわる情報も載っていて、発展した学習ができるのではないかと感じました。教育芸術社のほうは、日本や世界の音楽など、こちらも幅広く、また、「音楽学習MAP」等、目的がわかりやすく編修されていると感じました。どちらも学習指導要領の目標に合っているのではないかと感じました。

続いて、2つ目の構成・分量・装丁などですが、教育出版はカラー写真が多くて、雑誌のような形で、子どもたちが興味を持ちやすいのではないかと感じました。教育芸術社のほうは、写真の量が適量で、また色遣いも優しく、見やすい教科書だなと感じました。

3つ目の本市の生徒との関連などですが、こちらはどちらも、イラストなどで歌い方の具体的なポイントを記入されていて、丁寧に説明がされていたので、本市は合唱コンクールなどが盛んだと聞いていますので、そういった子どもたちに適しているのではないかと感じました。先ほどもご意見がありましたけれども、「浜辺の歌」に辻堂海岸の写真が載っているのは、やはり身近に感じて楽しめるのではないかと感じました。

委員長 ほかにいかがでしょうか、井上委員。

井上委員 私は、教育芸術社の教科書について述べさせていただきます。先ほど石曾根委員からもありましたけれども、レイアウトが非常にシンプルで見やすく、生徒が必要とする情報がわかりやすく書かれていると感じました。藤沢市が力を入れている取り組みの1つでもある支援教育においても、支援を必要とする生徒への配慮がされていると感じました。また、諸外国の作曲家による鑑賞曲ですけれども、教材ごとに「この頃、日本では・・・！？」のコーナーがあって、発展的な学習のきっかけが示されていると感じました。これは、学習した楽曲に対して

すぐに比較できる情報がコンパクトにおさめられていることで、歴史への興味・関心を引き出すきっかけにもなっているのではないかと思います。また、鑑賞曲の写真が全体に新しいものが使用されていて、演奏者も見やすいと思いました。特にヴィヴァルディの曲では、当時の演奏スタイルを再現した写真が使用されていて、歴史の史実に基づいた授業展開ができると思いました。

委員長 橘田委員。

委員長 2者についてお話しさせてください。

教育出版においては、それぞれの教材においてとても詳しい情報が盛り込まれています。写真も大きく、華やかな画像は視覚に訴えるので、曲の情景がダイレクトに伝わると感じました。「小フーガト短調」は、フーガの説明や楽器の仕組みなど、とてもわかりやすく説明されています。また、歌舞伎では、ツケなど、すぐに体験できるようにたたき方が説明されています。ほかの鑑賞曲も大変詳しい説明がされており、読み込んでいく中で生徒の知識が深まっていくつくりとなっていると感じました。また、コンピュータ・ミュージックが取り上げられていて、スタジオでの録音風景などを通して生徒の興味・関心を引き出す工夫がされていたと感じます。

教育芸術社では、1年生の教科書でまず小学校の復習が扱われています。習熟度がチェックできることは年間予定を立てるときに大変効果的な内容だと思います。さらに、1年生の教科書では、変声期に配慮したなめらかな旋律が主体となった選曲が印象に残りました。段階を追って、男子のへ音記号への移行ができるように配慮もされています。また、ゲーム形式で音楽記号などを学習するページが設けられており、自然に楽典が学べるような工夫がされています。指揮法においては、無理のな

い指揮図が示されており、基礎から3年間で段階的に学べるように構成されています。歌う側もシンプルな指揮で歌いやすく、生徒に寄り添った内容だと思います。全校で合唱ができるようにつくられた「ふるさと」は編曲が大変すぐれており、内声の動きも配慮されています。豊かな響きのする間奏では和音感を学ぶこともできます。学年ごとに歌ってもよく響く編曲ですが、全校で歌うときには3年生の混声四部の響きを聞きながら、1年生も和音感を学べるすぐれた内容であると感じました。

委員長 そのほかにいかがでしょうか。

 では、音楽一般を終えまして、器楽合奏に移りたいと思います。ご意見をお願いいたします。

若林委員 私は、器楽合奏に関して、教育出版、教育芸術社の両者について述べたいと思います。

 まず、器楽合奏においては、教育出版、教育芸術社ともに、説明と写真がバランスよくて、楽器の特徴や奏法を学ぶことができますと感じました。また、両者ともさまざまな国の楽曲が多く掲載され、グローバルな時代への対応が考慮されていると思います。加えて、民族音楽も充実した内容で扱っていると思います。さらに、両者とも和楽器の取扱いについては丁寧に解説されていて、演奏を体験するときに必要な奏法の説明が充実していると感じられました。その中で、教育出版においては写真が大き目に扱われており、楽器の奏法がより詳しく解説されています。音楽一般と共通ですが、コンピュータを活用した音楽が取り上げられていて、生徒の関心を高める工夫がされていると思います。

 また、教育芸術社は、シンプルなレイアウトで見やすくなっています。楽器の奏法などでは要点が的確にまとめられていて、

体験的な授業においてわかりやすい構成であると感じました。

委員長 井上委員、お願いします。

井上委員 教育芸術社ですけれども、全体に楽譜が見やすく、楽譜と写真と解説のバランスがよく考えられていると思います。表現活動をする上でもポイントを押さえた指示がされているので、生徒の音楽に対する感性を育てる上でとても有効な内容であると感じました。巻頭に「音楽学習MAP」というのがあるのですけれども、それぞれの楽器について学ぶときに生徒にとっても調べやすい配慮がされています。また、Q & Aの形で、質問と答えの形で演奏のコツなどがページの下に掲載されているのですが、生徒が考えるヒントとしてわかりやすく解説されていることが印象に残りました。それから、和楽器の楽譜ですが、見やすくレイアウトされていて、生徒が理解しやすいように配慮されていると感じました。

委員長 そのほかにありますか、橘田委員。

橘田委員 教育出版については、クラシックギターについて奏法などが詳しく解説されています。リコーダーの起源については、写真を使って生徒の興味・関心を引き出すなど、それぞれ詳しい説明がされており、興味を持った生徒が知識を深めていくきっかけとなると感じました。また、選曲においても生徒の興味を引き出すように幅広い分野が掲載されています。折り込みのページもあり、豊富な情報量でカラフルな仕上がりです。息のコントロールがわかりやすく説明されています。これは楽器だけでなく歌唱にも通ずることで、効果的だと感じました。

教育芸術社は、糸とじで見開きにしたことによって中央が見やすい装丁になっています。これは、器楽を演奏する際しっか

りと見開きになるので、両手が塞がっていても楽譜の内側が隠れないので、演奏しやすいと思います。リコーダーにおいては、生徒の技術を段階的に高める選曲がされており、アンサンブルも技術に合ったパート選びができるように配慮されています。無理なく技術を習得できる工夫がされていると感じます。ギターについては、クラシックギターだけではなく、フォークギターやエレキギターなど、さまざまなジャンルの写真が並べて掲載されており、ポップスやジャズなど多様な音楽への興味・関心を引き出す構成になっています。本市の生徒も多様なジャンルに興味を持つ生徒が多く、実態に適していると感じました。

委員長 そのほかにいかがでしょうか。

それでは、器楽合奏を終えまして、美術に移りたいと思います。美術に関してお願いします。若林委員、お願いします。

若林委員 美術は、開隆堂出版、光村図書出版、日本文教出版社と3者ありますが、まず、全体的に見て各者ともに、写真、図版が豊富で、美しく構成されており、扱いやすいと思われます。その中で、内容や編修の特徴を見ると、開隆堂出版は、「わたしの『みち』」や絵巻物の世界の学習がそれぞれ6ページ分の分量で扱われており、興味を引きつける充実した内容であると思われました。

次に、光村図書出版についてですけれども、各者ともにピカソの「ゲルニカ」という作品について触れるページを設ける中で、光村図書出版は、「ゲルニカ」の作品紹介にあわせて谷川俊太郎の「生きる」という詩を掲載し、生徒に考えを深めさせるように工夫しているところ、この点に特徴があると思います。また、日本文教出版社は、美術画集と同等と思われるようなインパクトのある大判の図版を多用しておりまして、生徒の関心を強く引きつけられるように工夫しています。

次に、本市の生徒の実態や地域の特性という観点で捉えてみると、市内公立中学校が毎年開催している藤沢市中学校美術展から各校の特色のある取り組みがよくわかります。その点から見ると、各者ともに本市の各学校の取り組むようなテーマや題材が幅広く取り上げられております。授業に十分活用できるように構成されていると思われまます。

その中で、光村図書出版では、導入のところで「美術って何だろう？」というテーマで問いかける部分、それから、日本文教出版の2・3下の巻末のところでは、「あなたへ～中学校美術からの巣立ち～」というテーマで、メッセージ性のある文章が載せられている部分があり、本市の各学校が取り組む基本姿勢に関する内容であり、学習に取り組む姿勢について、方向や考え方を示すような工夫があると思います。

委員長 ほかにいかがでしょうか、本橋委員。

本橋委員 美術につきましては、各発行者の教科書から、小学校図工科での学習経験との関連を重視して美術科へ導入を図ってほしいという点で、非常に丁寧にその部分がつくられているかと思えます。

開隆堂の教科書につきましては、各題材で生徒の作品例ですとか、あるいは制作中の写真を多く取り上げていることで生徒の創作意欲をかき立てるような工夫がなされていると考えることができると思います。県の調査資料にもあるのですが、題材ごとに4観点の身につけたい力が「ふりかえり」ということで示されたり、あるいは囲みやマークで、基礎的スキルですとか知識、題材に関する知識情報、そして安全や注意に関する内容がしっかりと示されているところも大変使いやすいのではないかと感じています。

一方、日本文教出版につきましては、1年生が1分冊、そし

て、2年生、3年生を上下で分け、2分冊にしているところが特徴として挙げられます。各分冊に発達段階を考慮したテーマを持たせて構成しているところが大変おもしろいなと思いました。1年の分冊では、オリエンテーションにおきまして、意欲や関心を持って美術の学習に入れるように工夫がなされています。学習指導要領に示された学年ごとの目標との関連で、観点ごとに学習目標を記すことで、目的意識を持って活動に取り組めるようになっていきます。開隆堂の教科書と同様に、生徒の参考作品を多く取り上げておりまして、やはり創作意欲の向上を図る工夫点になっているなど感じております。また、紙質の工夫を図ったり、あるいは、作品や作品例を大きく掲載することで、そのよさですとか味わいが大変伝わりやすくなっておりまして、それらも生徒に創作イメージを膨らませる上で大変有効に働いているのではないかと感じました。

最後になりますけれども、私のほうでは、開隆堂、日本文教出版の2者について述べさせていただいたわけですが、両者ともに、巻末に基礎的技能ですとか技法についてのまとめがありまして、そのあたりも学習でその都度活用しやすい載せ方かなと思っております。

委員長 ほかにいかがでしょうか、中村委員。

中村委員 それでは、私は、構成・分量・装丁・表記・表現の2つ目の観点についてお話をさせていただければと思います。

私は、開隆堂と日本文教出版の2つについてですが、先ほどの本橋委員と重なる部分も幾つかありますが、まず、開隆堂ですが、1年生用と2、3年生用ということで2冊の構成になっているのですが、こちらは趣意書によりまして、2、3年生で使う教科書を1冊にまとめて使いやすくして効率のよい学習を展開することとか、2、3年生用の題材を一体化して示

すことによって表現と鑑賞の学習の深まりを促すという目的があるというようになっていきます。また、そのほかの特徴といたしましては、ページごとに色彩の統一感があり、美しさとすっきりした見やすさに工夫がありますし、本橋委員からのご指摘がありましたけれども、生徒の作業の写真が多くて、制作のイメージが湧きやすいような構成になっているなと感じました。

日本文教出版ですが、こちらは1年生は同じなのですが、2、3年生が上下に分かれ、3冊構成という形になっています。これは大きな違いかなと思うのですが、趣意書によると、図版を大きくすることによって迫力のあるページを提供したり、あるいは情報量をふやすことができるので、解説を施したりとさまざまな工夫ができるというようにまとめられています。そのほか、紙質を変えて素材を感じるページという思い切ったページがあるんですけれども、そういうページを入れたり、それから、美しい色彩を意識するというところも、いろいろ工夫されています。全体としては、生徒の作品ももちろんあるのですけれども、作品のよさとか迫力が伝わるようにということを趣旨にしているのかなということで、比較的鑑賞というところに軸足が置いてあるのではないかと感じました。

委員長 ほかにございますでしょうか。橘田委員。

橘田委員 私は、光村図書出版と日本文教出版について述べさせていただきます。

光村図書出版は、制作中の生徒の姿が載っており、授業での制作の雰囲気がよく伝わってきます。また、5つの分野が見出しの工夫によってわかりやすくなっており、生徒への配慮を強く感じました。

日本文教出版は、3年間を3冊で構成することで、私は持ち運びにも便利かなと思いました。また同時に大変読みやすく、

好感が持てました。さらに、大きなサイズでインパクトのある写真やイラストが余裕を持って掲載されています。文字と図版のバランスもよく工夫されていて、作品の魅力がよく伝えられていると感じました。

委員長 そのほかにいかがでしょうか。

それでは、美術を終えまして、保健体育に移りたいと思います。ご意見をお願いします。岩本委員。

岩本委員 保健体育につきましては、いかに実際に体を動かすことのイメージとつながっているか、また、心身の健康に対する意識を高く持ち、実際の生活に生かせる内容であるかが大切であると思っています。そのような内容に沿っているかに着目して見させていただきました。私は、大日本図書、学研教育みらいの2者についてこれから意見を述べさせていただきます。

まず初めに、大日本図書ですが、キーワードによって、各単元において習得すべき基本用語について定着させる工夫が見られました。また、わかりやすい図やイラストにより視覚的に理解できるよう工夫されています。注釈欄に「ミニ知識」というものがありますけれども、自ら主体的に学ぶための興味を引き出す工夫がなされていると思います。全体の構成においては、単元がはっきりとしてわかりやすく、授業においても扱いやすくなっている印象です。また、実生活に関連する内容では、自転車事故の実態や自転車の安全な乗り方などを取り上げています。中学生の実生活に活用できる内容になっていると思います。6月1日より始まった自転車の悪質運転者への講習制度開始などもありますので、とてもタイムリーな内容になっていると感じました。

次に、学研教育みらいですけれども、「ウォームアップ」「エクササイズ」「活用しよう」など、思考力、判断力、表現力の

育成を目指して工夫された内容になっていると思います。また、「探求しようよ」では、学習の内容をさらに深め、生徒が主体的に発展学習に取り組むことができるよう工夫されています。最近、積極的な取り組みが求められているユニバーサルデザインにも配慮された内容になっていると思います。構成においては、図、イラスト、グラフ、文章、これらのバランスがよく、全体的にシンプルなつくりになっているので、教員が授業の中で使いやすい構成になっている印象です。実生活に関する内容においては、離岸流について扱われており、水の事故に対する知識を得ることができます。藤沢市には海水浴のできる海岸があります。水の事故が心配される本市にとっては、地域の実態に合った内容と言えると思います。

委員長 天利委員、お願いします。

天利委員 私からは、東京書籍と学研教育みらいについてお話ししたいと思います。両方とも教科書の最初のほうで、小学校で学んだこと、そして中学校で学ぶこと、さらに高等学校で学ぶ内容というのが流れとして載っていて、見通しを持ちやすいなと思っています。さらに、小学校での学習を振り返る活動というのを両者とも随所に入れている点がよいと感じています。あと、基本的に見開き2ページが1時間の学習内容になっているので、見通しを持って学習に取り組める工夫がされているなと思いました。

東京書籍のほうは、後半に「考えてみよう」というところが設けられていて、それまでに学んできた学習をもとに主体的な学習に取り組む態度を養うものとして考えさせる課題が提示されていて、思考力、判断力の育成をねらうように構成をされています。また、市内の全ての学校に今備わっているAEDの活用について丁寧に触れられていることや、防災に関して、地域

安全マップの作成などが掲載されていることは生徒にとっても有効であると考えました。

また、学研教育みらいについては、岩本委員のお話と随分かぶってしまうんですが、主体的に学習に取り組む態度を養うという点で、「エクササイズ」「活用しよう」などの言語活動、共同学習というような視点で内容構成がされていて、主体的な発展学習へと展開できる工夫がされているのがとてもよいと感じました。また、これもお話しされていましたが、地域特性から、離岸流について触れられているというのはなかなかなくて、海の事故に対する安全の意識を育てていくのには、地域特性としてはとてもいいのではないかと思います。あと、防災に関しては、考えさせる内容が含まれていて、身を守るために何をすればいいだろうということを実生活に生かせる主体的な活動になる要素が含まれているので、とてもよいと思いました。

委員長 石曾根委員。

石曾根委員 私からは、東京書籍と大修館について述べさせていただきます。

初めに、東京書籍ですが、自分の健康を適切に管理し、改善していくために必要な思考力、判断力を育成するように考えられています。そして、生徒が主体的に取り組め、学習の流れがわかるように紙面が工夫され、健康や安全に関する内容を科学的に習得できるようにしていて、理解しやすくなっています。見開き2ページ、1単位時間として、見やすく、興味・関心が持てるように写真やイラストを豊富に使用して、各章末には確認の問題、活用の問題、学習のまとめが設けられています。さらに、学習活動「生かそう」では、自分の地域について調べるようなそういう配慮もされています。

次に、大修館ですが、保健体育の知識と教養を身につけ、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとあるように、健康で生き生きとした人生を送るために配慮されています。中学生が読んで理解し、納得できるように論理性や具体性が重視され、重要語句を太字にしたりして工夫されています。自主的、自発的な学びのために学習のページを設け、振り返りに活用したり、学びを生かそう、広げようと、生活に生かせるようにしています。みずからの問題として考えさせる「Challenge—チャレンジ」、生活に関連した「Topic—トピッカー」「Q & A」「情報資料室」が設けられていて、非常にわかりやすく、学んだ知識が実生活に生かせるような配慮がされています。保健体育科の中に、明るく豊かな生活を営む態度を育てるとあります。環境保全のために何ができるかを考える大切さについては両者ともに触れていて、藤沢市の生徒たちにも十分理解してほしい内容と思っています。

委員長 そのほかに何かご意見はございますでしょうか。

 では、保健体育を終えまして、技術に移りたいと思います。
渡邊委員、お願いいたします。

渡邊委員 それでは、私からは、東京書籍と教育図書の2者の教科書について述べさせていただきます。

 最初に、東京書籍ですけれども、教科書のサイズがA B判という形で大判になっておりまして、ページを開いたときに閉じにくくなっていて使いやすかったです。また、実習例のページが設けられていて、教科書の図面から制作できるよう、寸法等の記入に工夫が見られると思います。また、制作の評価のページが盛り込まれており、丁寧な自己評価の助けになるよう工夫されていると感じました。

 次に、教育図書ですけれども、教育図書の教科書は、各章見

開き 2 ページの写真やイラストでこれから進める学習をまとめており、学習内容がイメージしやすく、わかりやすく工夫されていると感じました。また、加工、工程に写真を多用しており、制作過程を丁寧に扱うことで生徒にわかりやすい工夫がなされていると感じました。

委員長 ほかにいかがでしょうか、石曾根委員、お願いします。

石曾根委員 では、私からは、東京書籍と開隆堂の教科書についてお話ししたいと思います。

まず、東京書籍ですが、家庭、学校、地域社会といった生徒を取り巻く身近な環境に対応していく、未来を切り開き、心豊かにたくましく生きる力を育成するように考えられています。生活におけるさまざまな問題を自分のものとして捉え、習得した知識、技術を活用して自分の生活を工夫できるようになっています。各見開きの右下にばらばら写真を設け、学習の興味・関心を高める工夫や、「リンク」「他教科」「小学校」のマークがあり、知識をつなげるように配慮されています。先ほども話しましたが、「生活に生かそう」から意欲的に学習ができるようになっています。そして、ネットトラブルに関しても充実していて、藤沢市の生徒たちにも理解してほしい内容であると思います。

次に、開隆堂ですが、実践的、体験的な学習活動を豊富に取り入れ、基礎的、基本的な知識を習得できるようになっています。生活上において生じる課題に対して自分なりに判断し、工夫、創造して課題を解決することができる問題解決能力を育てようと配慮されています。日本の伝統と文化のすばらしさを理解し、みずからの生活の中で継承、発展できるように考えられていて、使いやすさを感じます。学習の目標が示され、身につけたい学習内容がはっきりしていることや、振り返りを示し、

節目で学習の振り返りをするように工夫されています。リンクマークが記載されていたり、必要なところにバランスよく写真やイラストがあるので、非常に学びやすくなっています。情報セキュリティに関連した内容が充実していて、藤沢市の中学生にとっても必要な内容と感じています。

委員長 岩本委員。

岩本委員 技術科においては、実際の生活の中で生かせる知識や技能を身につけることが望まれていると思います。また、物づくりへの興味・関心や、職業を意識できる内容でなければならないと思います。そのような点に着目して見ていきました。私は、教育図書、開隆堂出版の2者について意見を述べさせていただきます。

まず初めに、教育図書です。数多くの実習例を取り上げることで、学びたい、つくりたいという学習意欲を高めるための工夫がなされていると思います。いろいろな作製作業の場面では、写真やイラストを多く掲載することで作業の手順などが誰にでもわかりやすい丁寧な構成となっています。また、リサイクルについて取り上げるなど、生活に直結した環境教育にも配慮された内容となっていると思います。情報教育においても、情報モラルを取り上げ、生徒を取り巻くインターネットやスマートフォンの課題にも問題意識を持たせることのできる内容になっていると思いました。

次に、開隆堂出版ですが、こちらにも数多くの実習例が掲載されており、体験的な学習活動がしやすい内容となっています。また、基礎的、基本的な内容が確実に習得できるような工夫とともに、その歴史において触れることで生徒の興味・関心を引き出す内容になっています。探求のページでは、技術教科の有用性を実感できるように工夫されており、実生活の中で技術

科の役割を考えることのできる内容でした。構成においては、写真や図版が適当な枚数配置され、大変に見やすいですし、文章の表記、表現も優しく、読みやすいと感じました。

委員長 そのほかご意見はいかがでしょうか。

 それでは、技術を終えまして、家庭に移りたいと思います。
ご意見を願いたします。天利委員。

天利委員 私からは、東京書籍と開隆堂についてお話ししたいと思いま
す。

 東京書籍は、小学校で何を学んできたかを振り返り、それを
発展させて、中学校で何を学ぶかについて写真も含めてわかり
やすく解説しています。それぞれの章で学習のねらいについて
見通しを持ってスタートできるというふうなくくりになってい
ます。また、巻頭にガイダンスというふうになっているのです
が、それに20ページ近く費やしてしまして、その中で、教科
書の構成とか学習の流れ、問題解決の方法、方向性みたいなも
のが示されており、ノートのとり方や発表の仕方、話し合い方法
など具体的に示されているので、ここを活用して、どの章も言
語活動を多く取り入れやすいように説明がされています。また、
地域特性から考えても、防災教育という視点はほかの教科でも
たくさん重要ということで話されていましたが、ここでも「災害に備えた住まい方」ということで、自分で考えて取り
組もうといった視点で、中学生が考えるそういう住まいの工夫
というようなことが書いてあり、ヒントが豊富になっているな
と思いました。

 それから、開隆堂ですが、全体が自立と共生のキーワードから入って、社会の一員として生きていくための基礎・基本となる学習というような捉え方をしています。「生活の課題と実践」というところを巻末にまとめてあるのも、その都度活用できる

という点で取り組みやすい工夫と考えました。それから、内容ですけれども、実体験ができるように写真をたくさん使っていて、その写真も、特に私が印象に残ったのは、キャベツの千切り、手のひら一杯で50グラムという表記があったんですけれども、本当に実生活につながるそういう写真も多く入っているなと思いました。1日に採りたい食品の分量というのも数字は必ず出ていると思いますが、それが写真でこれぐらいの量ですよというふうに表現されたりと、文字だけでなく、視覚的に内容が理解しやすい工夫がたくさん取り入れられているなと感じました。

委員長 それでは、金箱委員。

金箱委員 私も、東京書籍と開隆堂について述べさせていただきたいと思います。

まず、東京書籍ですが、A B判で見開き1テーマということで、大変見やすいと感じました。また、構成ですが、基礎・基本の事項が先にあって、後のほうに発展というふうに分類がはっきりしていますので、学習が円滑に進められる構成であると考えます。実践的、体験的な活動として、衣食住の実習例や、幼児とのかかわり方などが写真やイラストで大変丁寧に示されています。また、「やってみよう」「考えてみよう」というところで実生活に生かせる写真や資料が多くあることは、実際に体験ができない場合でも理解しやすく、実生活に生かせるものと考えます。また、中学生として自立を考えるというところでは、ユニバーサルデザインや男女共同参画社会について記述や資料が豊富にあり、ふじさわビジョンにもつながる内容ではないかと思いました。

次に、開隆堂ですが、こちらもグラフや表、写真が非常に多く見やすいと感じました。「豆知識」がページの下にありまして、

それぞれの題材に関連した写真や資料が掲載されているので、非常にわかりやすい構成だと思います。はさみ、火、包丁の使い方など、近ごろの生活の中でなかなか十分に経験できない生徒もおりますが、「やってみよう」、それから「生活の課題と実践」というところで示された具体的な実践例や方法を学習することができ、それらを理解した上で生活の場に生かせるのではないかと考えました。また、地域の食材や郷土料理の資料が載っておりますが、神奈川県は三浦大根、けんちん汁が取り上げられておりまして、本市の生徒にも非常に興味・関心を持ちやすいのではないかと感じました。

委員長 吉田委員。

吉田委員 家庭科の場合には、この学習が自らがよりよく生きることにつながっているということを生徒たちが実感できるということが大切だと思います。そのような観点から、教育図書、東京書籍の2者について述べたいと思います。

教育図書では、章の初めに「自立度チェック」というのがあって、導入で、みんなで楽しみながら自分の生活を振り返る、そういうところからその章が始められることができます。さらに、導入の活動として、身近なことに関連づけられた質問が示されていて、生徒たちの興味を高め、また、それに参考となる表やグラフが多く示されているのも考えるヒントとして活用しやすいと思います。学習の確認として、それぞれの学習内容にキーワードチェックがあって、基礎的、基本的な知識の定着を確認できるところもよいと思います。

東京書籍も、導入で、「考えてみよう」の課題が自分の生活に身近なところからの発問が多かったので、単元のまとめの「生活に生かそう」というところにつながりやすく、学んだことを生活や社会に生かしていくのですよというメッセージが伝えや

すい工夫があると感じました。また、基礎技能のページというのがところどころに入っていて、基礎的、基本的知識や技能について項目ごとにわかりやすくまとめられているので、自分がもう1回学び直したいと思ったときに、繰り返し、学習や、あるいは生活に活用するためにそのページに戻れるというところが大変よかったと思います。

委員長 そのほか、いかがでしょうか。

 それでは、家庭科を終えまして、英語に移りたいと思います。ご意見をお願いいたします。橘田委員、お願いします。

橘田委員 私は、学習指導要領との関連から、CAN-DOリスト、それからCLIL学習について注目しました。

 まず、CAN-DOリストは、聞く、読む、話す、書くの4技能別の学習到達目標を何々することができるという形であらわした一覧表のことです。本市の中学校でも各校で来年度末までに作成を試みているところです。教科書でもこのCAN-DOリストに通じる学習到達目標を生徒自身に見える形で明確に示しているものが多くあります。中学卒業時の到達目標から逆算して、この時点ではこのようなことができるようになるという目標を生徒と共有することが生徒の学習意欲にもプラスに働きます。東京書籍は、各学年の巻頭に、3年間の見通しを含めて、目次の形で、それぞれの単元での到達目標を何々ができるという表現でわかりやすく示してあります。開隆堂は、各学年の巻末付録として、4技能別にまとめた折り込みのリストがついています。三省堂は、巻末にページを設けて学年ごとのCAN-DOリストを示しています。英語を実際にコミュニケーションの道具として使っていくという意識づけにつながると思いました。

 次に、CLIL学習についてですが、英語そのものを学ぶの

ではなく、他の教科を英語で学ぶことで、教科知識、語学力、思考力、コミュニケーション力を統合して育成する学習方法です。学習指導要領でも教科横断的な学習が新しい課題として取り上げられていますが、光村図書出版では、各学年に付録として全部で5つのCLIL学習のページがあり、技術家庭、社会、理科、保健体育などの学習と関連づけて、英語を学ぶだけでなく、英語で学ぶが用意されています。他の教科書でも似た内容はありますが、新しい学習の形をはっきり示していて、大変興味深いと思いました。

委員長 ほかはいかがでしょうか。若林委員。

若林委員 私は、構成・分量・装丁・表記・表現の観点から、東京書籍、三省堂、開隆堂出版について述べさせていただきます。

まず、あらゆる子どもたちの理解を助ける上で教科書のユニバーサルデザインの重要性が増しております。その点で、東京書籍は、各ページのデザインがとてもシンプルで見やすく、ページのレイアウトが一定で、さらに新出単語や基本文が常に同じ位置にあって、全ての生徒が安心して使用できる分量、そして構成が工夫されていると感じました。

それから、三省堂ですけれども、カラーユニバーサルデザインを意識して、識別しやすい配色や、文字やイラストとともに、アイコン、それから色の濃淡、罫線などに工夫を凝らしております。さらに、巻末には、絵でわかる英語の仕組み、日本語と英語との違い、基本文のまとめなど、和・英の形で、多数の単語をジャンル別に掲載していて、復習や表現活動に使える内容になっています。

次に、開隆堂出版ですけれども、左側ページに本文がある他者と違って、左ページで先に「Basic Dialog」という短くシンプルな会話の中で、新出事項を使用場面とともに示しております

す。そして、解説と練習の後に右ページで本文を扱った上で、ミニ知識が載っているコラムで興味を広げ、さらに、音読をした回数を記録するチェックコーナーが設けられています。これは、実際の授業の流れに沿っており、生徒にとってわかりやすい構成になっています。また、1年生の学習では、基本動詞が絵つきの27枚のカードになっていて、巻末に載せられているのも工夫があると感じました。

委員長 泉委員。

泉委員 私は、本市の生徒の実態や地域等の特性との関連の視点から、学校教育ふじさわビジョンの「かかわりの知」との関係でお話しします。

さまざまな人々との関係や社会との結びつきをつくろうとする子どもを育む第一歩として重要なことは、自分からコミュニケーションをとろうとする意欲の喚起だと思います。その観点で、東京書籍、学校図書、三省堂の3者についてお話しします。

初めに、東京書籍ですが、1年生の教科書の表紙を開きますと、11カ国語で「こんにちは」と「ありがとう」をあらわす言葉が現地の文字と片仮名とで紹介されています。それぞれの子どもたちの明るい笑顔の写真を見ていると、思わず語りかけたくなくなってしまいます。また、各学年で学ぶ内容が巻頭に見開きでとてもわかりやすくまとめてあるのですが、そこに「Daily Scene」として、日常でのさまざまな場面におけるコミュニケーションの方法がまとめてあります。例えば、食事の会話、電話の会話、道案内、グリーティングカード、ウェブサイト等が書いてありますので、興味の赴くままにそのページを開いてみますと、実際の会話ですぐに使えるような表現やその活用が紹介されています。

次に、学校図書では、教室で使う英語の表現がとても見やす

くまとめられています。文字の大きさも大き目で、授業を受けながら確認したくなったときにもぼっと目に入りやすく、活用しやすくなっています。また、巻末には、英語での自己紹介、他己紹介が写真入りで掲載されていますけれども、その中に、呼びかけの挨拶や友達との関係、趣味などのバリエーションがさりげなく散りばめられていますので、例えば、子どもたちが修学旅行先で海外から来られている方との会話をしたくなったときなどに使ってみたくなりそうです。

三省堂では、教室で使う英語の種類がとても豊富です。先生から生徒への指示や生徒から先生への会話だけでなく、友達への声かけなども含まれていますので、英語の授業以外でも気軽に使えそうです。また、巻末の付録も充実しています。つづりと発音の関係や発音の仕方も丁寧に説明されていますし、いろいろな英単語も活用しやすく分類されていて、とても使いやすくなっています。

委員長 井上委員。

井上委員 私は、1つ目の観点から、4者の教科書について意見を述べさせていただきます。

まず、三省堂NEW CROWNですけれども、レッスンごとに「GET」というページで新しい事項を知って、その後、「USE」というページでそれを使った内容を読む構造になっています。さらに、各ページに文法のドリル、右ページには「Practice」として、聞く、話す、書く練習が、ワードバンクというその活動で使える語句の紹介とともに用意されています。細かな練習が繰り返せる点がよいと思います。また、各レッスンの後ろには文法のまとめがあって、復習しやすくなっています。さらに、発展的に、話す、書く、読むコーナーのほか、「Project」という総合的な活動が各学年に3回ずつくらいあって、4技能がバランス

よく配置されて、統合された活動があります。巻末には読み物教材が豊富にあり、まとまった英文を読む練習が用意されている点も重要なポイントだと思いました。

次に、東京書籍NEW HORIZONですけれども、ここは習得、活用、発信という3部構成になっています。4技能をバランスよく配置した練習や活動がばらばらではなくてつながりを持っていて、基礎から発展に段階的に言語能力を習得するという上で非常に効果的な内容になっている点がすばらしいと思いました。

「Daily Scene」という新しい文法を実際の使用場面で活用している会話練習のページがありますけれども、ここに簡単に日本語が載っているのですが、全部訳してあるのではなくて、言いたいことの趣旨が日本語でちょっと書いてある感じなんです。そのことが日本語を通してではなくて、英語そのものから内容を把握するという助けになっていて、言語の使用場面を理解したり、自学自習による練習をしたりすることを可能にするなどと思いました。あと、「Tool Box」、工具箱というコーナーに、伝えたいときに使えそうな語句とか表現、つなぎ言葉などが書いてあって、英語で表現する際の助けになっています。また、巻末のまとめが充実している点については、先ほど泉委員からもあったかと思います。

次に、学校図書TOTALですけれども、各ページに小さな練習がたくさんついていて、レッスンの終わりに4技能をまとめた「Lesson Review」というのがある構造になっています。レッスンのまとまりのチャプターごとに「Check It Out」という文法のまとめのコーナーがあるのですけれども、これも生徒の理解を助けていると思います。また、この教科書もチャプターごとに「Chapter Project」という総合的な自己表現の活動が入れてあり、わかりやすく段階的に生徒の技能を伸ばしていくように工夫されています。また、3年間で扱う語句が他者より多い1470語ですけれども、そのうちの約半分の659語を1年

生で扱っている点、早い段階で多くの表現を可能にしようとしているという点も大きな特徴だと思います。

最後に、教育出版ONE WORLDですけれども、レッスンの合い間に、「スキット」という場面を設定した短い会話とか語句のコーナーがあります。また、読み物等を挟みながら、「Project」という総合的な活動を各学年に二、三回入れているのですが、よく計算された、工夫された内容だと思います。また、各ページに「Culture Notes」というコーナーがあって、ミニ知識を得るコラムがあるのも興味を引きます。また、特徴的なのは、「Essentials」という別冊が各学年についていて、会話や活動のおまけとか、赤いシートつきの問題がついていたりして、復習として利用できるようになっています。また、盲導犬、児童労働、沖縄の移民の歴史など、特徴的な教材を豊富に扱っている点もよいと思いました。

委員長 そのほかにいかがでしょうか。

では、以上で15種目全ての審議が終わりましたが、つけ加え等、何かご意見はございますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 それでは、議題1「平成28年度使用中学校用教科用図書について」の審議はここまでとし、審議を終了いたします。

これで本日本日予定された議題に関する審議は終わりましたが、全体を通して、委員の皆様、何かありますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 では、特になしということですので、次回の審議委員会の日程等について確認いたします。次回の審議委員会は、

7月13日月曜日午前10時から、場所は藤沢市教育文化センター大会議室でと考えておりますが、日程等よろしいでしょうか。

では、次回の議題について連絡を申し上げます。次回の議題は、平成28年度使用特別支援学校及び小学校もしくは中学校の特別支援学級用教科用図書の審議と、平成28年度使用中学校用教科用図書並びに平成28年度使用特別支援学校及び小学校もしくは中学校の特別支援学級用教科用図書の審議結果についてとなりますので、よろしいでしょうか。

では、第3回目につきましてもよろしくお願いいたします。事務局から何か連絡はありませんでしょうか。

事務局 特にございません。

委員長 特にないということですので、本日は長時間にわたるご審議、どうもありがとうございました。

これをもちまして全ての審議を終了いたしますので、第2回平成28年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を閉会いたします。本日はありがとうございました。

この会議の結果の記載に相違ないことを、確認する。

署名委員